岷江入楚

宿生 方西十八

特別
へ12
4604
48

N12
4606
48

寄生　私年立ニハ廿二三四歳ノ由裁之　花鳥ニハ廿一歳ヨリ…

弁年立ニハ廿二歳

廿三歳　中納言　私此ハ早蕨ノ前ノ年ヲ於其裁之

藤壺女御御腹女二宮御事

夏　母女御崩去　依之女二宮御裳着延引事

四十九日過後女二宮参内事

秋末行幸女二宮藤壺御殿菊事

与源中納言打碁約事

夕霧左大臣六君御事　右大臣とりけるかいあやまり也

按察大納言紅梅御方事

此時按察大納言ハ右大臣之御をとゝなれハ大納言と
いはれけり　共アつて中宮をとりけるなれ
なつかしく此宮とつけるを物ゆの作なの刻也

弁年立ニハ廿三歳ヽノ

廿四歳　中納言　私花鳥ニハ廿二歳トアリ　諸抄廿四也　又早蕨同時也

夏　女二宮御除服事

御門ハ女二宮欲令嫁ハ源中納言給事

源中納言不意示宮伝姫君事

河海ニハ廿五歳

48 3717

以書六君可妹兵部卿宮為八月ヨリ
宮治中君自八月比懐妊ヨリ
八月源中納言打樓花ヲ二条院ヲ見中君ヲ
計次ヲ地紙ヲ
十六日兵部卿宮妹聖ヲ　九日六条院ヲ東御所ヲ
二条院中君物詠ヲ
明日兵部卿宮ヲ六条院ヲ
ヲ二条院中君御地紙ヲ
六条院御ヲ物ヲ　紫母屋ヲ
兵部卿宮ヲ六条院ヲ
二日歌解ヲ
源中納言ヲ六条院ヲ
源中納言宿桜案君内ヲ
兵部卿宮ヲ畫見六君ヲ　九一二歳ヲ
兵部卿宮ヲ二条院ヲ紙ヲ
中君ヲ文ヲ源中納言ヲ　千紫宮治ヲ

又ヲ日源中納言ヲ二条院ヲ
陽九帳對面ヲ　押入母屋中ヲ反實ヲ男女ヲ
兵部卿宮ヲ二条院ヲ　二三日留ヲ
侍中君移香ヲ
源中納言ヲ送衣裳ヲ二条院事
源中納言ヲ常ヲ歌書ヲ二条院ヲ
源中納言又ヲ二条院ヲ
入蘭中君ヲ　僧座ヲ
中君ヲ君ヲ源中納言ヲ為ル妻君形代ヲ
九月丈余ヲ源中納言ヲ宮治ヲ
壊宮治ヲ文ヲ為ヲ
石出ヲ居ヲ對面ヲ　百阿闍梨作御忌日ヲ
源中納言ヲ宮治ヲ　昔物ヲ
源中納言ヲ代ヲ　申ヲ事
古文御子母日中ヲ君ヲ
常陸ヲ女歳二十ヲ
宮治ヲ書ヲ紙ヲ　陸奥守ヲ為
宮治ヲ紙ヲ　兵部卿宮ヲ見ヲ中君

年立元五歳

菊盛院殿より中君合地事
又曹大臣家二宮院給る
元五歳 二月任権大納言兼左大将事
同二月廿日中君悩給事
直物日源中納言任大納言兼右大将事
家二条院を参拜る
六条院設大将饗る
二月二条院中君懐生男子事
御産養る
七日余産童女二条御堂
又日大将家行る
御門賜御文大将母儀入る
宮若君五十日事
大将家二条院孔見文若君
三月晦日御門渡御産童
産花宴る
御贈物

大将賜天盃る
紅梅殿大納言
立文藤和卒る
紅梅殿大納言
童女御を二条乃伝母
産童
其後女二宮退出大将二条
四月大将出家法造御堂事
常陸司女自長谷下向事
大将垣間見る
大将清見常陸守母
尼君対面大将

寄生　或宿木　以歌為巻名　秘　花鳥に み山木にやとりける蔦の色トアリ

河 やとりきと思ひ出すは木のもとの旅ねもいかにさひしからまし

一名負鳥　私此名花弄　秘　蔦木也けたや

のかなり此聲してよふこ鳥をもけきとめてかくよみける

花 風ちる木は寄にある翁こと山木にやとりける蔦の名とあ

里やとる木は木乃名やといふ物は葉に葉寄生とてあり

葉乃上に生えて又楓の樹にも生えてつると風にもあまた

はあまりかくれなる 物なれは名とりていつまてものやかう

きたいあるは薫大一歳乃夏より大二歳乃春まて

のことなり　二月に直物乃次に任大納言為大将のこと

みゆる

奥 此巻薫廿三歳より廿五歳まてのこと　並にあるさかしとし竪

横ね支るいまの巻に例あり　別注と此巻推なの系

より総角に八宮乃周忌のことありし年此はまた歳の春

までのことありて又次の年ようつりて卯月まての事也

秘 巻名に寄号之薫廿三より廿四五乃年まて三ヶ年此事

わり給ひしは早蕨巻よりハ椎本の末よりはけ
まきは早蕨のまへにしるし侍り末にしるし侍りてかの
事とはし出るゝ竹河巻にして其の云の歳の年より
のちとなる 末は源氏乃廿五の年にあたる也 此巻にし紅梅
廿三の年といへるもまへかのそれとけなるへし抱
宮の例なし 美

美 寄生ハ寄ノ一字をやとりきとよみ ことはによりて
ふるとをふくし 奈寄生とよめり

これ比紅梅の巻にあるハ紅梅大臣(コヒヾリカオトヾ)よりの女御にまいりけれハ
花 竹川巻に夕霧左大臣に物まうしみゆる 此ほか
さまざまありけれど大臣といへるはあれ人にて
系圖にハ藤壺女御大蔵卿脩理大夫なるの父とみ
えり今上ハ若菜下より位につきたまふ事と見え
市ハこれよりさきの事なるへし 此藤壺の女御ハ東宮
の御時より参りし也 女二の宮をうみ奉りて 女二宮ハ薫大
将の室となりたまへる也

●左大臣 梅枝の左大臣 若菜上の左大臣 此人なるへし

私 此左大臣ニつき系圖ニハ梅かえの左大臣とありおやまりし行幸ノ花ノ巻ニなどに
より若菜上までの左大臣之

大蔵卿
脩理大夫
藤壺女御 此二人女御乃はらの御腹にあらす次
今上春宮の御時まゐりしの女御中宮よ
りさきにまゐりたまひし 女二の宮をうみたてまつりてやかて
ならせたまひぬ 梅枝の藤壺とおなじ 宮此人や

私 左大臣乃三君之藤壺女御と号せり 明石中宮よりもさきにまゐりたまふ

又此左大臣の系図には梅か枝の左大臣とあり誤也
幸巻より若菜上まての左大臣也　箋 梅えの巻に明石中宮にあり
弄 見系図三君麗景殿
わたし人々の名なるへし
箋 これ比といへるは推かの始とみて見へし　后左大臣と
のとうもへし　竹河より若菜上まての左大臣也
まことは姜家ときこえさせし時
秘 方こそすむにあらそひまつりたまひし
箋 今上春宮の御時の御事也
人々なりけり
箋 明石中宮よりしきなり
中宮はいまたおはさぬ
秘 明石中宮也
箋 あの宮をいとほし明石女御当時中宮なれはかくいへり
なら　箋 多文いつくよりも用　箋 今上女二宮也
女宮へところ

よのいとくちおしく
麗景殿女御の心也
あの宮をとりいつれは末の心をくさむかいり
秘 女二宮也
御かたちもいとおかしく
箋 女二の宮かたちもうつくしき
女一宮を世にたくひなきものに
箋 明石中宮腹也
ちかきころの御いきおひ
秘 又左大臣也
箋 故左大臣按察使せし人は余りあるを
思ひしき所り
秘 女御の心よりそ物をさし
十四にてなりたまふ　御もきせさせたまつりて
秘 女二宮也
つりさる事あつかい　箋 左大臣の也

女御殿のうち地のけはいまつ〳〵いとをかしくてうせ給ぬ
秘 惟光の朝臣 薫 源氏の大臣 ものさわがしくなく
内にもとのかたちにかへる
今上し
ふかまりぬる女宮をもまして
殿つかの女房のなかにもまして
えもいはずなきまどひつちよ
秘 女二宮し 薫
ひとくるしくあはれ
七上の御心し
ひとりぬるまくるまに
女御の七七日
日ごとにとりてせられし
薫 上毎日女二宮をとぶらひ
とぶらひ給ふ
秘 源氏 弟 御所人
人藏つかさ
秘 皆左大臣の息殿つかの兄弟
薫 ゆ二人女御の別腹
心いとかなしく
上の御心ひとしおかりしめ
なかめ給ふ菊うつろひ
花秋
秘 うつろひ菊の色
まつこの御ふる
薫 宮の御のあれ
とにと女二宮をとの御
うつくしうきこえ
薫 上の御鐘愛
なりけり
手あてなる
秘 なりとの

朱雀院の姫宮と六条院よりもつきそひ給
私 女三宮の例とおぼしあつかひてしかうしるまし
ものいひやあるすしたるあるとおぼ
花 朱雀院の女三宮と六条院よりもつきそひ給
とい不足のなきまうしまうしまうし
薫大将の御ものはしてやうちすあぬくえし
うし
と仰せいふうしうしうしつかあるを
私 文をといあるうちにうしろうしてこまうしてを
女三宮とかたらひてしをはるれし御んとるくまうまを
弄 女三宮と六条院よりとうしたるうしうさるくとりて人とうし
うしてをいうしうし
御心ちかるるを
実 女三の御方のよりの不豆のはやまうしあんと
うしうしうしもふせうし
実 女二宮の事と今上御位のれとやはうしうしは
あまうしとおぼし

やうにうしつかうしてのまうに
花 朱雀院女三宮と六条院よりもつきそひ給
のまうよ 今上の女二宮と薫中納言とあつかひ給
くかはしうすし
私 女三宮の例よりも 弄 実
りうしうしうしあうしうしうしうし
弄 うしうしあうしうしうしうし
大うしうしとうしうし女二宮をうしうしてきうしく
たうしうしうしうしうしうし性しうしたいをうしきう
七
私 うしうしあうしうし女二宮をうしうしうしてまうしまし
いうしうし薫の性をはうしをうしてまうしまし
つあうしうしうしあうしてうしうしうし
私 女三宮をうしてうしうしまうし
うし
うしうしうしうしうしうし
うしうしまうしに対面かうしうしさ

菓子より花しろ菊なかりしゆゑ
花の名をかりてかくのごとし
かよひ路の菊花し
中つかさの人々こんづけのみこと中納言源相
花 上野の宮こゝにて中務卿親王今上の御ゝ中納言源相
長い薫大将御おとし人々官位戸
と奏ぜられし事
私 中務親王今上の御おとし上野親王前代の親王
幸中務みこと上御おとつ中納言源
長い薫しる上の中刻
けよくうるはしてゆ出
薫乃面白あるゆゑ
ゆゑ乃ゆゑつゆ
私 勅宿しかりしよ作
あるしすまきゆ
幸 友童ゆ

私 友童小てゆ二条御所し宿給いしと
花 廿二条八四女御乃位ゆの形ゆ
く似あるねゆ位墓
いるつゆ日ゆ
ゆいゆ位めゆ花ゆ
花 文集十六云遣春唯有酒銷日不過碁仙指心
ゆゆゆいゆ日ゆ
幸 碁丙清長夏ゆ
汁 銷日不如碁
延喜七年二月三日御記 朝親大臣ハ日還御之時ハ寂
行幸也
寅宜田碁持懸物有仍馬則碁丙或戸卿親王
ゆ尤大臣真間ハ所引 當春野 章麻毛馬立庭
中一丙給尤大臣勝
いつゆよけゆ
薫ゆつゆ
ゆ上乃ハ下心のあゆ

[illegible]花の枝いけさせ給へ（賭ノリモノ カケモノ）

花の枝いけ給ひの内裏の内裏にて氣色かのあらせられる

弄女二宮の方と仰せられてくの給て

秋けり地に賭字賭字（ニミ）をよみ女二宮の御方とかめの

[illegible]

[illegible]

笑女二宮のもとと作らせ

[illegible]番よりずいとつ

笑碁三番の内ちと二番のは負

まけ[illegible]花一枝ものすと

花[illegible]花一枝と作らせ[illegible]

因幡園中花養艶請君許折一枝春　笑

秋薫下殿して菊とおらせ

薫

秋もとの垣根の菊の[illegible]

秋もとの離をそらうらうらうらうらいあさうらうら

薫の[illegible]

霜のあへもてそしらしの園の菊をしらしめ[illegible]

花延喜御集時雨つ枯の[illegible]

紙定集[illegible]

七夢女二宮の[illegible]

[illegible]

秋女二宮と毎女御しなくてもしら[illegible]平

笑枯の園の菊と毎女御と園の[illegible]女二宮とい菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋薫のいろせし　笑

いとやかいとしあるほさはくよのいとかしおんくのうるをとを
花中者と師者のうかんけ行
いるをといて
秘廿二文しかを中文あるほとを宇治の大者乃中者よりも
ほとをとすをうてあきはん義
とをうをよをつくを
秘人いうくあるうをを
実廿二文ほをつくを人しをを
きうをしいうよかりせは
実廿一文をうをとをを
秘仁なるしくうを
あをうかりけるうりける
薫のあをうるをつりをを詳しをうを
尼大臣のかりをして六者いさうをを廿者しをよをを
花火者に作り者よを尼大臣の物をを大臣にあやまりを作を
蛍廿四乃又尼大臣よりををうをををうして左りくりの大臣

とをいるを
秘古をを作を大臣ほ永しを子細ん化粧色ほを花者を人家家
に及ぶをうを火者に花大臣なるをを永ぬのを
実薫より廿二文を拾ひをるををきをて火者の子ほ
一を六者者をかりを入に六者をいうををあるいをれをを火者
乃六者のるを
をををうを乃を紀ほにあるうを
白文乃六者を大るををかりををるうんを
水をりををしくをるをうををををを
仁
仲勢物語を昔文をのをるを出をいををれに
負信公
をりてくあをををみをを文をを人をりををををををををををを
つをををはをうを乃寺をつをををを
花
をりをををををを水仁不通ををを世をを
ををををををををを文を人に宣宮をを
すをををを人ををををををを人を
をのををををををを中をををををを

秋 うはめをし せさせ給へとかかりとて 中宮 やをなるるとかうなる
とて下臈をとをつくいむ きまいのすゑとさうしあ
ら 無アつ文をかりそめ 第
なををくくきこゆ
美白薫をなをてゐむこよそそしく
みとうしてむこりとめゆ
美少将のめのとべ せ二文の君
うしあつけよの給て
美と上の君をを少将の君のやうのめを
中文をしまやうにうみ
秋 四宮中文をうみ給ふべ 第
年白文の御つぼ入をを四宮中文 下めを
きこうしいはひて
中文の御心
いとかしくかかる
秋 四宮中文白文を兼別 下めを

みをこうしい御うしくこうそ
美親王達の御方風ふみ出給ふこの御ふりまりて西位
をををつきめ事
う人の御世をを思ふゆくと
秋 春文をりかりを
ふ人人を一とをふまるぬ
九人人を女一所ををきまるを見は
白文中をををいうをくの御
おかくのまあらるこをるる
花少将かくの雲井居と兼文を二るをよりてふし
あるる
秋 少将兵ほをををとををの居のあを兼ふをく
てかりまをを
美少将の心井の居兼文内侍のすけをあを
号ををきをきるるるるる 平 東文しりをく 秋
美 玄文四即位の御儲座と第を
平 東文四即位の御儲座と第を

見の忠心もしりもちもて忘れてかゝはおゝかね
秋 白玄の忠心して（朱 義）
とゝろりしけるありつみとゝらあられて
秋 夕霧乃はなりといひて
弄 夕霧よそうらあかれんとの事よ
（朱 義）夕霧乃実にしくかれる方なまふくすましと白玄乃
うちさくわかれや
秋 何せむ乃大納言乃
南時右大臣と右大臣とうけ迷ハ心坊くまきよりて本乃いれ
つけらる宿をとらせり（朱 筆）
弄 致仕大臣二男 紅梅右大臣 竹川に右大臣とて世の家乃さ
とく大納言といひつけたるを 按大臣のましまめのす
おしそいの仏ろとそ（蛍兵部卿宮の女也 母真木柱上）
花 桜家大納言女ハ中君なり 紅梅巻にせうとゝてハやま
と白玄乃いらせし人也 但桜家大納言ハ此時右大臣也 然と
し 桜家大納言といひしよりハ時よりて白玄ハ中君と云りけれる

よりてりて乃宮とけるハ桐壺乃作者の御娘
秋 蛍兵部卿宮乃御女まきハ柱の腹也 右大臣のましまめ（朱 義）
その宮ハかりしか
弄 早蕨乃巻の表とおもし
秋 薫君廿三乃年の後あけまきの事よ南也（朱 義）
表ハ薫 廿四歳
私 此薫ハ浮年ハ薫廿三歳あけまきの末と同年時
早蕨乃春とおもし
女二宮もらふくいて好まれハ
秋 廿四乃宮也
私 早蕨にハ薫廿五の表いうしとうらう 此同まいこ比の
する也 その年よりうりけてハ 宿木と此女二宮とうつくしそね
追りて宿木乃中間と 早蕨巻にのけまし
ささきこしいてりと
弄 薫乃事
（朱 義）今上乃忠乃 薫乃女二宮のうるまとめいいてりともち
かつしまつすもし

つげきこゆる人〻
主上の心中と蓋し人〻の苦
おもひかこつてかの人〻
蓋の心底をかなしむ
なしかなきかなしい
私伺ふに御中宮あてて
私主上をかなしむきの心
をつゝしみ宮をきとうし
業蓋乃心は主上のいつ此と
をつて宮をうたふと
をしみる
を記をいにしへ人の
私宮沼乃大夫し
をうたゝ
業愛うかゝる人何おもき病ひやうしなるといつて
口ゐ
私仮大夫を似給へるとうた

業深草乃帝とく〻き序
むしろをけんとうの帝
汁反魂香　前動
匂ひをきこゆ
蓋乃心は女二宮のすのいそ
たの大夫をいきこゝろにて八月
私九大臣夕雲し　日蔵卷乃八月七日白文をむこ
をうたきこゆる　平
業八月十六日は白文をむこ
二条院乃あいのこゝろ
私中宮し
業宮沼中宮し
いそのハ数をねあつる海
中宮乃方のをとをうるすの
あるるなり
白文の宮性の
をよちくてい
業ひむしてを

小いつまりくらゐ人にと
秘 山伏花 れとりうしにと心
ぬ山すこよくるもも
秘 ゑまく山すこよ伏りて花と
私自文のれくよ物て文法星人ゑゑんと
りて法ゑかまりうぶ山のまち山人
花 二業院 むこうれそして
とあるといそれ
ゑるしこのゑや
山のまち山人と
かりくきゑせう
文法ゑきしるよして
八文の常よのいとき
業のとれゆる
花業のとい業つのすこをあそ心 山根根つか
のにしあり

秘 古つのやこといて桐つかの老よけ刻あり
心のこあでしやゑる 何ゑくこあ仏心し
秘 心の不動
義 大業いちと美れゑる桐こ人の学とと山へ学称ゑる性
ゑりこ中業の学ゑ
り世よかこれまりふ人
秘 大業の学業のそしのこゑれこ
れとしふくいこさいあしと
義 男いさのまれかゆそ学こ業ゑこゑるふすこ居ま
ゑんこしゑれこと
物ゑそふさ仏ゑそ
幸師 業の学よ物てかりをまりふ中業のこまこ加て
こふ物ゑるこはせしこと
私こゑ仏といこの物 大業物生小てまりまゑこ
居ゑこかせんと学こ花
なき仏りけこと物をいゑ 秘 八文大業といて

何ツハくれなき拙う
秋　白文ハ一号あらくしきをもうせられまつ法るとも
文ハ〇ゝもあられ
秋　と古乃事のいそ〳〵一ッれハらうしくうらしあるへ
弄　とうい乃事ハそ〳〵きよ中惠といとかしくらうあるへし
美　白の下心ありて添聊く云ふへし
まいすうねさ海
秋　懐妊るすや　弄　美
あつき比らりれハうくかいすほかめりと鈍
白文懐妊の事と見知形り〇ハうて異氣乃触り中惠
のるやもしきとらふへし
法係人しそのやしあい
美　白の法をッ不審よ思して懐妊の人へしそさやしあるとき
けふのあかうと
八月よなりぬれハその日すとかまりそ
秋　六惠乃くるまし　弄

美　六君嫁娶乃日をよ前より中君のてらんへやあるへ
文ハてらんとまいある孫と
秋　白文ハいれ出しうくしあるへ
私くにんとにかかさう〇と稱といい出入れ中惠の心る
くてとうく折るうみを中惠の心まいの孫ねとうく
おかすゆつて〇よあ係るし
志のいら係るさうしあるねを
秋　此下弟る化をいらてそう
私中惠の心よ理をつけてとく一段詳しく係し
うくるうつあし　はへ
秋　中惠のまうち形て往ハ二日の夜よれなくあうしあるへ　美
心ふうしきまきうりしり
美　白乃心をすう夜ハれのあんを心ふうしきいとうせしと
思しいてしいと前うちよあうしあるへ
右乃比ハときうていよのねよそ
秋　あうハさんの文の法へし

[illegible]

平

私つくるよう中夫の心

実ものしりのようにして一向より中夫のつくるこころと平

と察してくるる

私何の引手の心もてつくるこころすいさすして偏し

地を忘れ[illegible]

[illegible]

中夫心自然の[illegible]

かりて[illegible]

中納言殿いとかしきまいらせと

薫の中夫のすを忘るやうに

あれとおかしくも

自分中夫をあれとおかしくもとのつくるさよ思うる

あるるは心なしとし

せるし伴とたるるる

私父書のあるるの事心　平

実父書のあるるとりくいつ[illegible]

[illegible]

中夫よりあれ[illegible]

あいるるもの心よ

私薫の我地にして中夫[illegible]

忘るいなるるき地[illegible]

かけよりつきこと[illegible]

実自中夫とおいて[illegible]

むしの人心をたて[illegible]

私大夫

[illegible]

実大夫心をつけ[illegible]薫の人心のにこと

[illegible]

毎日御とのこ

大夫の事

人に心もしあつく次
大君の心ハすこしくけりなくかくしかりしを
一ころしえさしもうつましく
一向ニ薫を厭却しい人としいうつ中君ニゆ了
見にうる
かいすなねうり
いそきいそしさいしなと
白文ハ中君とおもいしなり　箋 中君の事也
めしく物くるかしく
けめたくしく也　秘 箋　弄 ややかすまし
花めかしきと云詞幻巻ニもあり又十巻の下の詞ニもめく
しく様ちうかしとありめさ給しき心すまくして文なそハ
将字也白文と宇治へつれていそしすまるそいへりあけ
まきの巻ニあり
ねてありきこし　弄 中君と白文ニありなしと薫の心也
秘 白文ニ媒ニそしるる

気しはりとしそれ何ニのあさは御
白文ニ薫の心ハ中君のうへハ法問宗ありさまする事と
薫の心也
それりうのるすまとけて也
秘 主時乃奉云として八乃あれ出るまうしろしなと
箋 津字ニしし白の容通の帰とく へよ下地也
於ある事ニすろうつりやをる人への女の心ハある次
秘 明友の交心とつく へきますも あしく海の法心なもらいけに浮
ゑのるするしも給へりさふるも　女乃心もちい乃こなう次
一切人のそし へなるべきなるを
弄 薫乃心ニ明友なしの交も交ニなくていを云なりや
私 男女乃肩のミかしある人の心ハ明友のあめりと云也
るすそを
一ころにこゝろ深心なくしに人ハいとこになくかしくゆるすまし
箋 薫乃それと我心と心ゑて　私 大君一人ニ薫のつゝしてうつ
ら思所ニ白乃法ら人の心しても色もしくゆるさと云箋記

おもひをむすほしくとあり
秘 大君也
おほきみをこそましつはと
秘 中君もおほきみのゆかりと思ひはかなしれさえまさりかなしと 箋
こまかへ人をなやましこと
秘 角総巻にあり
箋 中君を大君と同し人と思ふ故へと薫ハ大君にくらへなれはまし
たかりもそあるへきにしかし
箋 薫ハうらむへきにもしかしと
箋 匂ふの宮をはましし給はまほしくなるなる
中君を自ら身にしあはせ思ふなるを大君なきを私に比自身
のかはりてうちいはれいなりしなかにのわかれしてうらみなるへし
人のうへさに
中君の物思ひなとを思ひやりなとを思ふ薫の心也
あけのまうちしも物といひしはせ
秘 薫の心也

よろいハこれ君たちのかしよかくるまもしき
弁 宇治の君たちと 弁 源氏方これ女房と女三の宮にのはなとと
つきそとをとなへるなり
秘 女三宮の所よりある人へうちとけ宇治の君たちにかたらひをする源氏よりなる 箋
我心からよそにけてもあらぬ
弁 心つれなくまうしと宇治の姫君のうへをおもひつゝけし
とおもひけてまいらしと思ふなり
花 明くれはさてそ我つかるき世よ
秘 朝かほのあさなきての花なれやめくみまさむしてうつろひなる
河 朝かほかはし 弁 箋
譬日及之在條恒雖畫而不悟 注日朝菌者世謂之木菫或謂之日及也 文選歎逝賦
日及ハ朝かほの名也
ゆうしはしぬかけり
秘 夜ふけてたち出てゝなみたくむ給へる 秘 二条院中君かうつるゝ二条院よりいはよあなれ
小乃院しまいたみよ
河 二条院のまへ二条院より小ちれなるへし
弁 箋

[illegible]

私白文御前ゆきまてとり

私白文乃けゑ中者よ

さぐしの乃ゆいの御ろの

実ろしあもといろ心ゆいの

白ろけぬふ花ろと

京内ろき白ろれは今弱の月にと

かりて花の中よ私花と〔illegible〕

えろしろいろ花てもそ〔illegible〕

私天花乃容儀し　好文乃人ゆい似ろ

弱かをしらせゆ

私弱花のうろのあふさゆし

薫　ゆきの月のゆろやめろ〔illegible〕

私ろくろふくきしやを花物〔illegible〕

弄みしゆきせをめろ〔illegible〕

つゆまとろ〔illegible〕

実と弱の月ろとの感しをろ〔illegible〕

ろろふき花ろとしゆ

ろろゆ〔illegible〕を〔illegible〕

私好色乃ろゆ心しとゆ〔illegible〕

花女郎花ろとろろそ物もろほかとこ〔illegible〕

と業弱かのをろゆ花女

よりてあをしゆゆとろゆ

まあゆろよみをきゆ〔illegible〕

弄引年　花鳥

実芒薫乃性と花まてしろゆきゆ物の心とろてゆ性

とろゆをいろ

ゆろゆろゆに月ろ花

私東乃あろほよろいて月のふろゆふ海面白

せろいしとけゆくあさ

実白文乃かりせぬゆ

かりしつまろと

薫の月ゑあろ海

朝まだきに花まいらせよとの
まいらせ遣や
弄引手まてしかり
私引手の及ばぬ男なるをてを洗し
家引手の間ハうち心引手て動し奥入れし
こうこうとまいりこうこう　弄こうこうしうしうあけるるし
女房のおけうし
私格子しまいりこうこうし　女房のおけうしもみるる
なるし雪の降きまてす
私おれすり下車しかるし
文の思しほ所ふり
私白文のおこうとおうとも
思いりてさ思とよ
白のうつるるの香のやうい薫のあるいうし
ことあまりなさかるへるる
薫の文法とまきへいりふくむし

おれなるへとかきせるのかと
私薫の間し
こほみそのおよ
家細の心し　廉心　数も同元
私内の女房をのとば
小かりしるやうのうれそうし
河内面の女房の居住をへまきる小かりて
方ようへ心し　内赤内房すし　弄　家
私薫の間し内ようさうこうし少へ今ハ薫のこつの
ら早すしてのかよし
私十間のつきむつしきへ薫のやるる少へ今のこうへ
よとりるるやそこ小かてかとやのうれそうしれ
いよ間へやよかてむきよさうるちのとうるる
ゆとりるるこうへよる人よ　お親しるるかとうへ

かれも文にて御心をきは
秘 御心さしてうこと（おほすしかしと
私御心とに心ましといふ
折しこれ
花 おうこれともこそとうと 不審通
かしくすへきも 旅ね
秘 男くしさ 義
うそつましろしく
秘 中君乃心しつましくすくすくと
なやましくおかさるる
懐妊のさと薫乃けしきなし
こありまへるかしき
秘 六君乃御事と思ひまへるなるへし 弄 義
こまやかな世中乃ほとへきや
秘 薫のうくそし（すうし 旅 ましとの兄のましと
まさとよまへし

秘 人ゝよく似たり 義
うちやミまつんとち
義 大君乃病中と思ひ出る成し
人こしくきうくしきうら
秘 薫乃詞 弄
男とまてるやむさ次よ有とよ
薫乃男と人（おほされたる男よこそあれ我男とやうや
ともてなしかれ思はまさそれはかしと思ひそこなれし
心つうかしきゆ乃思ふあしとそのゆるし
秘 ふつうかしきるましくやしきるまし
秘 うかしきるは大君のゆく所 きうよとは中君と我ゆよ
せはるまし 義
つうさくつかすて
官位乃世世間乃男の慈なるは定めなりけるよしなれは
き男よ御乃おき物思ふはさ御のまゝても飛かくきき
うきそなくし海くし薫のつかへ

やゝあかりさしてゆくも
秋 槿といへ
美 朝かほのつゆふかし
やとりさし入て
藤中へねかと入ゆかし
蘆 おもへてそみえけるもはかなき露のちきりをときしね親のかね
美 婿君におもへてうんとらさして 秋
美 世上のうきねさとねかとのちきりハ一つとや
ことたへいてしもかてすきねよ
美 蘆乃用意とのつゆ便なれと
秋 蘆の手遣乃名つかるといへてうらむとあすわそ露とすなれなく
おりとし
美 ときらびてしもとハ継と落さしとせ毛とこそのつ落ぬ
ときなつらす
秋 露ハときなうしと
きつねまたに遣ねる花のうつれさまとかくし露へ折そまよ行る

美 きつね月ハ露乃きつね見と
秋 下句ハ中君の自嘆し
弄 清ね月にうきねるハあわ思のうとくさ露ハ中君乃身
しりきへあハ許りける露折ら犯心涼し
あうりけると
秋 此もあさいあにくりまるうと花鳥乃引弁下叶ん
弄 引弁不見　美 引弁於寸助こと
河与君結新婚　菟絲附女蘿　古詩
松蘿契吏妻　奥入伊行尺水原ハ下一同ヒ葉是ハ中君
の細し　世乃うハまゝして此文の心をまよへきよあう次細
新乃華弁あるれて助付し
花放すうす松の嵐の音をすハ何よりも花とみえまし
ヒ葉此弁の心あてよハ自ら行れもそ細わの弁よ何よりも嶋
とかある問ほへしもつりもハ露の命乃いつるをさと何よりも憐と
いへる弁うるハ於叶へしもうりもハいつりし
私河花給弁とのをこれ多うて於叶しもう侭去た皆種しまし

まりその形しき
業大君と号いつる
秋乃月いとすゝしうすみのゝ
秋薫字治へ行めぐるゝとゝろ
乃心あり
等薫ハ平生心よ悲うあるゝ
産しまゝきしまとよいとゝあ
阿古
ゝとハあもとゝ人いうふし宿
私抜抄云歌し　等うし年
仏院乃うせ給て後二三年の
院六条院うしうのそくゝ
河六条院道世一給もうの
又栖霞寺ハ
私抄乃つきゝ
世乃東二三年阿道世
給て後嵯峨院うし六条院

花水原云世とうむき給しけう乃院ハ市方ゝ給ゝ心
云下書しう　河海云六条院道世一給乃市世初
うみゝうう嵯峨院ハ桂院ハ栖霞寺ゝとして東仏
院六条院をハ乃院うせ給て後二三年ハうう乃東
世とうむき給ゝ　嵯峨の院と六条院とをうしゝて
くゝ乃ハ給ゝハ木ゝ乃ゝ乃の流よつけしも海と
催ゝ給ゝと薫大将
と仏院ハ業上ようゝ乃給し給て乃の院ゝ院長し給
しゝを幻巻乃東よ悲歌しゝ
ゝ乃東抄云てゝハいとうゝ
院と産ゝ乃ゝ乃ゝ
給よゝうゝ云ハ
栖霞ゝ乃ゝ乃ゝ
大覚ゝ乃ゝ乃ゝ
屏の後美和元年ゝ
ゝ給ゝ貞観十八年よ

嵯峨院ハ桂院
次よ嵯峨院と桂院
嵯峨院と
嵯峨天皇乃離宮として脱
嵯峨院ゝうつ給て国史ゝの
淳和太后云求ゝ奏し給

て寺よみさせし大覚寺とふるつけ侍る淑天皇陵
遊乃仮階庭不拔墓樹亦壊といへるは國史に
のたまふ淑天皇のさゝの院は世をのがれ給へる
ゆゑにいまは六条院の御所なるべし
秘 此詞書にあはせてこゝろをとゝ昔のゆゑをかなしみ
給へる 幸
家 こゝろにくるしきといへり
秘 ちゝの乃院のゆゑにかなしみ給へる大臣なるのゆゑ淳和太后の
ゆゑよりて大臣なるとゝ号し給へるとゝ花宮清和太
后とあり改て為淳和べし
家 花宮ノ義用ゆ
乃御あるゝ乃人ゝ下心あさき人ゝ
花宮ちゝ乃院なせ給て六条院より行人乃事
秘 六条院し
ところくよあれちる法
家 六条院よつゝしり人ゝ
心ゆるゝ心ゆるゝ
こゝよりゝ人ゝゝ皆世とゝ号ゝ乃行ゝとゝ
ゆゑ心あさき人ゝ
ゆゑにいゝる心ゆるゝし
物乃ゆゑ
物乃ゆゑ心
家 ゝ乃家乃ゝ
秘 熱傷とゝ号て祇とゝ人ゝてゝ又雪しうゝすゝめゝとゝ家
幸 乃ゝて生てゝ六条院あまゝ侍よゝし又雪ふと
しゝゝゝゝ
河毛詩云北堂萱草能忘憂 本云北堂儒者居所也
家 をゝ云ゝよゝ云
供とは家のゝて暮て供
仮吉乃岸の云ゝよゝし家ゝしてし外
花ゝすゝ家ゝ思家の一ゝ又萱草と云憂草とゝよ
つゝて云ゝよゝしいゝてゝゝ
こゝ乃太のゝゝし
家 ゝ

むしのこゑのうらみ

家原の御世を思ひ出て

ふるいへのきこゑのうつさ

家原氏ふるれば時のうつり

かはりにしのうらはは

私六条院の世をこそのうらいへは蓬はしけるそのうらは蓬はしけるそ

かるるしるし　花　幸　家

花このうらき蓬こそ

私大夫のゆゑ　幸　家

おのれ　そよのうらはなきこゑのうらいるれと

私おのれ　ぬくるるるしいるれこそ

家原の時のうらと大夫のうらと同全常うらと

陸奥ふるきこゑはまこそて紅葉のゆゑと思て

私大夫ふるしみるこゑのとこそるるる紅葉のゆゑと思て

病つきのかと思人つる　私は住ハ後役ノ住ハ九絶ハ山中ハ古也

私は私の家ゆゑ蓬のうらは家原氏の時はうらはる

いろ〳〵大夫の蓬の思慕ひと蓬の心ひるれはいろ〳〵

陸奥ふるこゑのしるし

なるきのうらは

蓬のさはし

昔の人をいとしも

家大夫のうらとふるよ思ねは中夫のうらとふるよ蓬のさはを

見ていおれるこしまして紅葉の地ふるよいろ〳〵思ふれ

いろ〳〵思れは蓬よりふれて一入ふるしるしるに中夫のこ

私大君ふるこゑのうらと白ふのとこそうらの中夫のうらと思て

病つきのかと思人つる

私は住ハ後役ノ住ハ九絶ハ山中ハ古也

陸奥のうらとは家原氏の時はうらはる

私は住ハ後役ノ住ハ九絶ハ山中ハ古也

蓬のうらはるこゑ

蓬のうらはるこゑ　幸　中君　同　山里ハ地の中

世のうきこゑのうらはるこゑ

山里ハ地のうきこゑのうらはるこゑ

世のうきこゑのうらはるこゑ

私引年山里八洞のふしきさ一中君ハ山里ニてゐしられ
れハ世乃ふるさとを行ゑ乃ハ
ゐきとゝ申いまハ世中ハ
ゐるゝてゐ山里ハ
第引年京日ゝ
年乃ゐ
第年乃ゐの宮ゐ
私ゐ
ゐ乃ゐ
年八月乃年三年乃ゐ
私父宮の年三年ゐ四年
年ハ
年三回若年忌ゐ
ゐ
ゐ乃ゐ
ゐ乃ゐ
ゐ乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋ゝ乃けしきあらそふ
秋中黄乃御けしき　平
ゆゑなるなり久
第大黄乃名ゝ中黄と中つ
の心くまなきもとゝ秋と
なるゝ人ゝなるなるね心なる
第白ゝ中君をしあるせもと
とゝさはらくゝもしい心秋心ゝと
ゝ乃まゝよはるさゝしんして
平師君よりゝれてゝ精をゝ那ゝ　河精進
心ゝ次
秋大君乃後蓋ハ精をかちにてましまし
ゝゝ文れいとしとく
花ゝ蓋乃母文
ゝ御ゝゝ沖いとゝ乃やうく
第世中御心ゝ蓋乃精心ゝちに
ゝ心のとゆゝなふ海のあ

平世ゝ乃文ゝ蓋乃分沖をあやうく左心ありとゝ
てゝ心ゝ紅
いく世しゝあるゝとゝ
河古　いく世しゝあるゝ秋分と
世中と心ゝ紅ゝ
第世三ゝ左文ゝまゝ
くきるゝあるゝもゝ
ふゝゝきるゝさゝふゝ
物とゝふゝん蓋の紫と
ゝゝもゝくゝとゝ
平蓋乃中
なゝまゝすゝい物心ゝあるゝきゝ海と
秋なゝまゝの世ゝ文ゝ蓋乃紫心ゝあふ加ゝ左心ゝあふゝ海と母
文ゝゝ文ゝゝまゝゝゝゝゝ
平紫心ゝゝゝ
左乃大ゝゝのゝ

秋ゝ紫ゝ　平　第

[illegible]

少将の白をむこうのさはし　八月十六日

筆　白文のそこくたりそほとを
いとしいとしいねるまうて
あかしもへは　弁内人をつかしてる　仕業内
秘　少将白文のをつまをはいさほといくまちのへ
おりそへしもへはい
秘　中君し　筆
こうしをきんもしへうつ
弁　月をうつしうつし
秘　今日吉日なるへし
附こうは中ねして　弁　少将の使し
少将の子右兵衛佐服し六君と一服し
おりそうの月をやとる秋やとまつしるとしみ友を
花　元良親王集
大うの月をやうの花をうのもしるる夫か

筆　月ト云ハ、所ノ秘　ワカスミ、若ハ我宿（ハ、ハリし　行ヨトヤ

元良親王の大元の月　秘　花宮といへるとそうしうつ
○よ歌なるあり
弁　秘　内しうつ
宿（ハ、ハリし　行ヨトヤ

文い中し
秘　内しうつ　弁　二条院（行のあ人（きのはし
筆　中夫よ宵とうつ
はあきうつ
秘　中君（文をまいせうつ　筆
はいつやいうあうえ
秘　中君の御をすいうつ
弁　白文内裏うつ中君のまつ
うつや又二条院（白文かうつうつ
ものもよ月をあうめて
白文中君と二条院うつ
たりそうよりて　中君の
中ねのまうつるを　筆　少将の使以中ねし
秘　以中ねし大うつの月うつ

[illegible]

秋 白乃詞

[illegible]月をみるしそよ[illegible]

業 小町 集よ中[illegible]馬の思ひて[illegible]

[illegible]

[illegible]

私真對月明 真思往事 損君顔色減君年白天の贈内

の詩 [illegible]

[illegible]

花二条院寵愛よ白[illegible]中君ハ西對[illegible]

[illegible]

[illegible]

花拾 [illegible]川水まされ[illegible]乃松のうきたちまさる[illegible]

[illegible]

業 うき物ハ人乃心よハ白[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世中をたのしきあるほうにハ

秋八[illegible]

業 年八[illegible]乃[illegible] 中きこ乃心

[illegible]

業 [illegible]

人乃すにしなるやうなる

河人流 [illegible]山窟 私流字ハタヅヒト云ハ[illegible]

[illegible]

業 白[illegible]

[illegible]

山の月のうさいふんるれく
私古文大系のうせもないしはいるるしあるとこ
ひたれい一段分うしてみて中表の所と
ひすせよかくかく紛うしんぶらとれはけと
幸中表の所　又文あるものるれるれるれ
かかかか

弄 椎の葉のそよぎかなしてかなしき
付 家まさしいまよりあるいくを業松殿のあれは椎の葉なる
一弁の反つ
花 椎のもとの山ざくらと呼人心
弄 椎のもとのやどりあるしるし宿は椎の木をたのみ
秘 枝椎のもとのかたらひかなしき
業 椎の葉の色の紅なるもあるもの
松風さへ宿る山の風あるき椎の葉の色もかなしく
中者 山ざくらの松のけしきにうつり
秘 白雲の山のうちすしもあるとかつて
まもるこもとのもるもあるやあん
秘 昔の山風のあるうしとすれどもやとかなるる
業 宿るらん姿きるるてもあきをもるるとくいて
月みるいと紅を
付 後撰 弟十巻 月をうつ
秘 ふるいとあれとしいむかしとかの人のを

秘 ふるいとあれとしいむかしとかの人のを
独 秋の月をあきかつ月をあれといえるつる
弄 ひとり月みるをいむとしてすぐ出ぬ不分明ゑ但は撰あり
秘 小町の集中にたの男思ひてうれしうれしうれし

[illegible]

秋懐妊の人の

[illegible]しう[illegible]いてゝ

秋大君さく不食し[illegible]

[illegible]の所[illegible]

秋自文所[illegible]

第

さいゝとりとの心[illegible]

弄中君はりもの人[illegible]

いゝ[illegible]けていゝ[illegible]

第中君の用　秋中君の心[illegible]

[illegible]

第[illegible]自の所心の[illegible]

人[illegible]いゝ[illegible]

秋[illegible]

第中君の心[illegible]

[illegible]の人[illegible]

中君と蓋[illegible]と大君の[illegible]

[illegible]いと[illegible]

第自の中君のもと[illegible]

[illegible]

秋六君の所[illegible]

人の[illegible]

第六君の[illegible]

いゝ[illegible]

弄自文[illegible]

第

あざやぎて[illegible]

第[illegible]六君[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の[illegible]

花[illegible]

第[illegible]

[illegible]

第中君の[illegible]

御ものいひなどいとをかしき

秘六君（のほ相）なし

なまじ乃人こつまりて

実御かの人こ我とも言てよろこぶ

天下よあまりぬき

秘白文乃御心よ中君よあまりぬくとれど平

私白文乃御心世間よ平ふうて意ずるき心なりと

きこえあつまりすい名なりとて

中君乃心引ひかれと叶ひ対乃御ろ心なれば

かまつりとこそすて白文乃人こも心くるしうと

御ろうしこそすて

実六君乃御返事ぬ心及ぶて絵ろとかゝせと夜ぬ

おろかにかくえつ孫乃つてしろ心くるしていそ

き中君乃ろ心ぬたすけ白文乃心なり

いとをきろ心

秘中きこう乃御ぬ心ろうろ

孫ろうし乃御ろう

秘中君乃ろ

実白文し

私白文し　私こ中君といるあやまり

ふうろうろうてあれは

実中君し心なういいまてそうおきあるうろ

うちあるこぬ心ろ

実終夜ぬきぬ心ろあるうろ

あいなく後くまれて

実白乃中君乃心と家て

ろうろうやすろうのこぬやまりけるる花をぬりろ人のろ

ろうとこ上ろうろ

秘花色乃家乃

私をこいつてさ法まきろ人のなよのあ朝白文

実平

なとろうこなやまりけるるはろうきる

秘白文乃切

すしきかりまちいそろ

海くませ法ぬ中ぬ

実八月十五

実乃後ぬ形ぬ

美そうの人なりとは心ゆ　作　筆
こゝゑにしてとゝまき
秘うく實のなほうをそうの人地のなと心
美とゝまきとハ六なほものるをうれるをつれなりと
いへきうさんとれいなる孫
秘中君の心し
美ゆーのるとゝへ物るハ服之の秘のこゆ孔よ中美北
地のたまつなり
昔し人ゝなねありさ海ゝて
美人ゝなねと是ゝとハ六美の高ゝくむ中美北相
いとうくうそさゆやつなしと
秘白の相しさゆやつにゝなり
さきくゝゆなるもやゝをうれハ物るまてしな
とあほをうくさゆやつなしゝれりとハ物つ
美白の相しさゆやつに中君の心ハ物ゝとゝの心ゝゆ

ゝあるゝとゝゑゝれ物しやゝとゝほ地をまゝて物ま
てしあるゝとの物ゝとゝくく白の美のあ一ゝらい物て
物人ゝとゝゆゝきゝの
秘六君し　筆
御心さゝとのゝるゝあるねゝあ
六美一ゝ心ゝゝゝゝゝゝ
さゝれとゝあゝれい
美白の庭の心ゝ偽ゝそゝの中君よゝむゝゝ時ハ保切ゝ
ゝゝ
いのちまつまゝゝてゝき御心
河内ゝりゝそね命まつ月ゝりゝゝ
弄ゝりゝそねゝるの心し　筆
秘住世まゝて要ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ世の要ゝたゝゝゝゝゝ
ほ世とゝゝゝむゝゝれゝゝ　引平　因ゝ　筆
ほのゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

笑 山世乃ちきりにつきぬ心みねにくれぬはなの春乃夜

なるかやと学こうをはよみしぬ

何こうをはよみしぬ

秋 なんをうらはしく人くるねせりぬ

笑 中君乃大ふすもはなを堪思ひ

ふかなる

多ふなき花

笑 中君乃日ふるはしめりしうあはせうかりしうき

秋 中君乃心し 笑

日ふるはしいつてふ

秋 中君乃心し 笑

ふるあつもるとしかかるしい

笑 月乃数すてへよをはれるす 古文 姫君のすてまて

ふしの時ふいるし又宮治へ海へきすふ心とあ侍

いとふしくふ

中君乃我なふしくふ

ふるあふてはいとこ

ふるあふてはいとこ

ふるあふてはいとこ

ふるあふてはいとこ

笑 白乃の中君乃行うむきふるとつよふ

秋 白乃紅

花てふしふ御ふてふ

笑 ふいはまふ

しとふふふるふ

人ふふふふふふふふ

秋 白乃紅

笑 白乃花の月ふふふのの

ふふ推量すふ御紅よ

けよあご君

秋 白乃紅

笑 中君とふての

花ふふ乃御ふいふ

ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ

六君ふふふふふ

ふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

ふふふ

まことに心よくまもれる名れい
美京人乃うこまうられしほるものかきと中君へ陳畧か
しとと
いうくことをえりてきうもいとをるうるきまれ
美六君へ心乃美京うつくしうこハ紅ゑうそてつくろいつ地と
のかくしてつもくよ美京の底のあ分へしうこ繁へ
さしかきと
世乃とりをもうれねそらうきぢうるほしかる紀
ゆしなまるすのかと中君へ白乃人へ
ゐ乃御方よりてし
秋中君乃方よりてしそ
かくりすめの人へ方を心と
方と心をねあうこ面
付いるせしいをるれそ
美白乃御つまうをぬと
京人やうるせしあは
花白乃御伝なとにつきれるすとおくハ中君と后よりて
なりとてうる
秋春日美すもうられてと
たいやすくとゆきるすにしあ孫ハ
美美京の立たうしるすのあるまなと聊今よ言う
おもへきとあうすと
命乃こうれなと
秋えそうねと心みよ命あうハ乗やまうしへやとねと
弄えそうねまいこうれ午
美とうく命なからてうし
うこきうもまつれるへ白御使
秋六君乃をうし
ううきるうとすれうく
美御使中君乃御方へ月京を
ゆ乃南かりてよ
美中君乃かへ使ふうう乃南かりて

仰まつる先てしきものとも
花後 なふたんよりてうるめ紙をもいかきいもとをつくかうして
と業後朝乃文の使よ禄乃裏きぬをうけらるる
私玉篋乃中禄といつり　第うたけ抱し
実玉しゐ乃中後樸よ大律思とかうきうてのうへの付
の今ゐと何あり
いたゐ乃ゑにいあきうき行つん
私白文いつの行よ文をうきて第せ行つんと
実て弱くく中君乃うへかいせ。ゐの行よと
やもそ乃ゑもハまをうと
私第よの花し
さくく見い行いとかしきと
私さくさくうちつけ乃いあり　第
実うち行ゑの心
すくのうしいあしし
御使乃あ海く行実なるとと白のいし

世房して御文ういれさせめ
う百おくて文と白乃とふてらるく
てなきさまよりて好なるんと私中君の第と白ゐ心
海世乃うやの御てなりうと
花ゐ乃ゑ海ゐ乃ゑ　第
私藤宰相　藤内侍　六君と養よ世六藤宰相
花六君ハ　藤内侍　ゑ井の君乃御腹　世六藤宰相
私花色乃実あやまちうの私の第うし
ゑしうきまてしこうろ免くよるや
実自筆をてし文のせうと中君のこの心六君乃為
よい迷出ゐまうしうれとうしろめたしといて第の花と
評してけり
ゐしらいるうしてさよ
花うれハ文乃初
実文乃初し宣旨をいつる　私文乃初
私ゐしらハ進心けゐ心し行出の海くすうる心
あやもしけて　六君乃ハ海とる

[illegible]

私いつよりとまるとハ高柴の六君とらの心し 弄

笑 [illegible]六君乃さ海し

起[illegible]

私白文の御介ハ去のもの[illegible]花[illegible]

[illegible]

[illegible]海[illegible]

花いつよりときけるなるとの[illegible]

笑 [illegible]海[illegible]

河からり

私白乃初[illegible]

[illegible]

私又[illegible]

[illegible]乃中[illegible]

笑[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中君の家の方よりとて菓懐妊のもとむしてもかくしてもきる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いのちうきぞして　秘母し所君しの世のそちと　弄　玄孫し　笑
又いとつまふくしもあるを　秘懐妊ようせるハ飛ふうるとしと　弄　笑
その日ときさいの方
秘明石中宮より六君よあしかりしかハ三日めの産　弄
おしくハしくまうしてのちいよいよ
秘夕霧し　弄　笑
中納言君さぶらひきこえて
笑夕霧の薫をとらせしして因車しして出のよ
秘三ケ夜の供し　弄　笑　花白き姫聖の後宮の花の
こしらいのまうしき
しき君し心つ〻ふ〻
弄薫をとむこえと宮うまつりあ〻
秘薫し六君ハ
白よりうるるとハ口惜く宮ハのをきしうり
ハ物語の後の心をやりてくく
夕霧のまさ海

人のうへよりあ〻て
笑薫の六君と白きのこのあ〻
たりてもの作式をとうちのよと
おとくハ人〻れをかしの物〻
秘夕霧ハ〻てくく宮
笑薫の心ようけぬを夕霧ハ物〻と宮ハ
よねをうるるよたり〻まうり
夕霧の章　白のかハすの
笑李ア王記の例よふ〻花香よのをしうり物よ
ちねまうせ〻て
秘こうの夜のちねまるよ
弄こうの夜の餅ハ銀器よりあ〻
めつ〻ねる　秘弟子地し　笑つるよあふるうと
とこうも出ぬ
秘白き六君のまよかりて
あ柳をそし酒宴をいうと　笑ハとくく出のて　弄　笑
笑あさまとしとハちと恥てかもうあき心ぬを

小乃ゑの御ゑゑゑの左衛門佐殿　弄　筆
秘　元弁乃の先殿　弄　筆
ゑゑして出ゑる陪ゑ
弄　白文乃冠（出ゑ）
あゆ乃以中ねさうゑゆけて
弄　盃とゑして出ゑゑ
筆　白文（まつうしゑとゑゑ）使乃人（二乃ゑと一版）
まアゑ乃左かね伊尹勅ゑ
中納言乃いゑゑまゑゑ
薫乃自（つゑ）酒と志ねゑ
ゑうしきゑうを
秘　あよどうこあられて八ゑゑまゑと薫ゑの行しゑ
ゑゑの（ゑゑ）人ゑゑ
ゑれとうらねゑゑいとゑ
弄　薫乃ゑうらねゑゑうゑゑ
秘　薫の海し　筆

京乃ゑいよいてゑしゑゑ御ゑゑ乃人ゑゑゑゑゑゑ
秘　薫乃出ゑゑ　弄
筆　供ゑ乃人をゑふて饗恵し
おゑしあふゑよゑいとかゑゑ
ゑ乃人ゑゑ供ゑゑ山供ゑの人廿人
筆　まアゑ乃三十人
四位六人ゑ廿乃ゑゑゑゑゑゑ
筆　ゑねいよ乃ゑゑの廿乃ゑゑゑゑ細ゑゑゑゑゑ人のゑゑゑ
五位十人ゑゑゑゑゑ乃ゑゑゑゑ袁のゑゑゑゑゑゑゑ
秘　ゑゑゑゑゑ帝乃ゑねよ中倍あふ　筆　ゑゑゑとゑゑ
筆　ゑゑゑゑゑ袁ゑゑ
秘　袁乃腰しゑねよゑゑて腰しゑゑゑゑゑ　筆
弄　ゑゑ三人ゑゑゑゑゑゑゑゑ袁のゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
よゑ一答唐ゑねゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言殿の御ぜんのなつよ　秘　内侍の御諧けり
なつかしうちなれて　美　薫乃なつかしめよかすかに
美　薫乃亭主そのもの
夜乃ふけてねもまきよ
美　花ちるのてしるしの
君入て　秘　薫乃三条殿のなつかし　美
弄　薫乃三条殿のなつかしてその
まもるみもとと
花　薫乃なつかしてと夜乃ふけ
たちしるけれ
美　何としかしるあるは
秘　薫乃なつかしるとさほと自殿のさはらくて
なるなるし　弄　以前のなつかして　寿とう殿の
なつかしてしらとかのめを
秘　薫と女子とちらくはけ自よりうしてまつめと　美

内よりなつかしまつをさしまし　弄　自殿にてはあ内裏なりけれ
殿よりてまつんと　美　なつかしの
弄　自殿と約しの　美　るとしみ原中納言よりて
秘　自殿と和方よりしの
少るあきら原地とて　秘　たちるる
秘　少るあきら原地とて　弄　美　薫乃心し
うちの御ちきあ原中
秘　女二宮の御ちる　美
こ君よりとくに
美　花きしき文字散し
あちの君とて人ちい　秘　宮治大臣
秘　女三宮のなつかし　美
なつかしの
桜咲花乃ちと
桜咲者
うちのなつかしゆるきを　弄　薫乃なつかし人
河開川　會坂開川　寛平菊合あり

秘 おもちの方の今し人のうたるべしよ 若ふく いとまさ
ゆとやうしくうたるまきとふ
まそ いうとも 物方牧ゐ
大ふうまとふ いきい川ハ道坂の開乃小川とくいて
なりしあるとといふうしてる 水馬 平 業
正業 ゆうらぬうへいうゆ仁と実ハの下のうしいあるものは
花あきくうそ人ハみまく開川のうる心をあしとそ
秘 董乃今し
業 ふくうあるうとうそくうる下乃流ゆあまきと
小うしとの仁ゆうしふよ
秘 今ととりて第ふ地乃くや
まとハこのそうこゆ
秘 董乃羽
業 物ふき秋乃の
とうふうしきとの牧とふくうる
秘 董乃第をいて
ふ人ふ情ふしくえんゆまとうあまうとんゆ仁
ふうしゆあるとうふ仁ゆのそうあれるとうよ
あふうらいあふて情ふくいみねと
あふうらゝ世をとゆもきゆゝるゆ乃ふるふ
平女ゝ文乃ふるふよゆうして第ゆ人とあう
秘 董少人よあふうらよ女ゝ文ふるふよゆうこと いて 業
業 白文巻よ世ゆあり
文ハ女ゝのしうんきゝうゆふ
秘 白文ハ しめし六ゝ と月ゆ 業
私 畫月ゆふ四日ゆうるとうゆ
ふうきゝうきゝうゆ
世ゝう六ゝ乃ふ仁ゆふれふうとうゆ六三と
ふうふうよあふ百ふく業ふゆふよ不足ゆるうよゆきと
けよゆうゆとゝ心ゆきとう 業夕暮乃自慢ゆと
付人乃ゆの心ハやゝうあふ孫ゝ

あいぶ[illegible]つきら[illegible]きるそ
美 [illegible]中表[illegible]
あいの[illegible]
秘 中表し
[illegible]
弄 六表の事 美
[illegible]
弄 六表の一とあるあくとあくとしきとあるに
[illegible]
美 結梅[illegible]美藤とつくも事ハ白文の御用[illegible]
[illegible]
花[illegible]殺しこの[illegible]事をそき前略する
美 必殺
秘 [illegible]殺しこの[illegible]花雪流前略
いるいる 美
私[illegible]

[illegible]
秘 雲井の[illegible] 弄 私春文の御の事
文の[illegible]
白文[illegible]
二葉院より元心やもく
美 白の少雪の六葉院よりのこかり中表ハをしき
[illegible]
花六葉院の[illegible]
六葉院しすこ[illegible] 弄 白文の[illegible]
美 [illegible]業上の位[illegible]
[illegible]
秘 中表の心不肖成と
美 中君の[illegible]
いとくやゝ[illegible]
白文の[illegible]
[illegible]
美 何と思て[illegible]

花いろ〳〵のひてるうん

中君宮治(乃)事

ゆくすゑのよもすがら　なをはるゝ

実　宮ハいとくけかるゝ　きかせ

一日(ヒトイ)のとハいかゞ　乃つゝ

秋　文乃紅八文乃中三乃の仁

る　弄　実

私法乃ゝ海仁ハ　実乃中夫(中ゝ)

かゝ仁御心乃ゝ　ゝまし

花薫乃仁姫君と　ゝ仁

君乃ゝ仁ゝ　ゝ

実　芝ゝ薫乃八文乃ゝ　ゝ

ゝ　ゝ

ゝ

ゝ

一日ついしゐてうちうほうこの
弄　ものの何蓋のも
秘　をの所をの日のもとて大概よりと
花　所人々の所をの日に経仏の
しるとしたうちうちてと
ときしるをるて人
はあをうしたうちなるを
をのしは仏しさをるを人ほ風
秘　仏仏をはをはをうう
うの仏人きあうもしかさて中者宗沼切の人きの
もの人きあうもしなるの人とはとはのようかとをしし
弄　とさうよしのしとはとはのようかとをしし
をるをるを　乃人しは所すを　第
をれは不孟と二人比
をうとの仏ものをほし
弄　ものをあとの仏人あさ比
秘　をあ人をはうしはとあう
美　中者人の綱をうけていて中者人の仏分をとかりをを
むしのをあとは曲句
秘　をうう花をよをほされほ義　公人しは皆をを
をうけいさうしいて
第　をうてりさんを
をうをに
蓋人をうほは
さて又人日又つうて
第　又人あうし翌日人又
いうをかりをを人をい
第　蓋人焼をうをあまうかをうをしきを
丁子をあの扇人
秘　をうをのをかり扇をを丁子のををををををを人し　弄
世ををあをうをうしをを人
秘　をほをををの
第　をうををををををををををを

[illegible]

秘 蓮の池

家 [illegible]

[illegible]

秘 白よりも [illegible]

何ゆえ [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 薫の君 [illegible]

[illegible]

家 [illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

家 [illegible]

[illegible]

秘 中君の心

家 [illegible]

一日 [illegible]

秘 中宮の御

家 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

秘 厳中の奥 [illegible]

家 退

いとをくも侍るの孔
家 薫乃紅をくてきこそあるなる
秘 薫の紅あまりのみおくぶかるなる
中あやうのきこそさせうけ給らふまゝ
家 宮よりこゝやうゝゝとれるすもあるなる
けるとかゝりて
中君乃心
ものもつゝみなる
薫の心
宮乃心をゝかりそそに
秘 自乃心を思ふつゝみかるより
心に侍いとうゝあ
家 自乃中をとゝいとけすの心中君は薫の心をるれし
こゝ世やいうきすやよ
付 世やいうきゝやつゝきあまのるもすむ世のるれるそき
秘 我ゝうるゝ引手世やいうきゝやゝ

手引手 日 美
白ゝとゝあるゝこゝあよ
秘 薫 一下ゝるし
をれいしをゝ心をゝゝり
秘 薫乃紅をゝ乃ゝゝ紅ゝてゝ
うれゝをゝしきよをゝをゝして
美 自をゝ心をゝしてうれゝ心深をゝ紅ゝしゝ
ゝゝめあゝて心をゝ
家 六条乃すゝゝうむきをゝゝやをゝん年ゝいをゝ
ゝゝ乃すゝゝをゝ
家 薫乃ゝゝをゝねゝ自もをゝ紅ゝをゝ
地をゝをゝや
付 ゝゝゝゝゝ地をゝをゝや世中をゝるゝの我乃ゝ対ゝん
秘 薫乃中ゝ心紅をゝゝれゝあをゝゝれゝけ手ゝゝ
ゝるし手ゝゝゝ自をゝ手ゝ
家 引手 日

なりのあり方
業 薫のちと風流めく
いとうるはしくぞえて

中務乃心し
うゝ心ちもとやもしく
秋中務の詞
ふるもいかりしかりしかりしかの
秋引ゝ乃心もそくの所にて業左の第六字法の左
ゝ
秋中君し九月もし
ひいしうちのれ
業 九月上旬し
ゆゝの世のゆゝすゝくゝ
業 白ゝ上ゝ原ゝ
私白しけしかいまし
身をかすすゝかれ

むし
業 大きをゝ
せさうやあれうゝ
業 月の乃表のうゝ
うれなつまて
引入ゝ
あるもやゝ
花 あるもやゝ乃ひてゝ
めとゝ法ゝのとゝ
うゝ
てゝけ
秋まゝ乃中きゝの詞の
兄れうゝ表乃ゝ
業 なるきゝ乃
あゝて
業 あゝ乃業ゝ
むし
業 大きをゝ
せさうやあれうゝ
業 月の乃表のうゝ
うれなつまて
引入ゝ
あるもやゝ
花 あるもやゝ
めとゝ法ゝ
うゝ
てゝけ
秋まゝ乃中きゝの詞の
兄れうゝ表乃ゝ
業 なるきゝ乃
あゝて
業 あゝ乃業ゝ

[illegible]

中夫乃心

[illegible]

秘中夫乃詞

[illegible]

薫乃心

[illegible]

[illegible]

秘大夫し

月[illegible]

薫乃心中[illegible]

[illegible]

中夫乃心

[illegible]

秘中き足乃心[illegible]

こハなそあ[illegible]

薫乃詞

[illegible]

[illegible]

秘中夫乃詞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かへりてのちこころゆく
秘 蓮の花形
業 何となく〳〵きやうあり
しるき花かと〳〵めの前あつ
秘 蓮の花形 花はさかし
業 心性の本ゆゑ蓮の妙形
なりやまもりけるやうは
業 懐妊をとゝ蓮の花
いとをつゝとゝ
花 懐妊の女のこゝろの事
秘 懐妊は着帯形
業
やまくしもいあるこゝ
業 こゝろのこゝろやもそうもうまし
さうくるもの
仏分蓮のこゝろをよ
をれもてこゝろまもゝ

業 さのしくたもいこゝろむるよもせをれをこゝまと
すこゝろ
月のこゝろ
こゝろをもしこゝろかゝをもそ分にそひるは
業 面かゝ月といつ孫くいて。さのこゝろ
宮沼よいとこゝまかけよ
中表宮沼
業 のやよ中表の蓮の心のこゝ
出て中表の引合
まこゝをふきあこゝふこあ
業 蓮こゝ中表
業 こゝよこゝの宮こゝ昔たほゆる秋のこゝ
秘 昔こゝ
業 昔のこゝ
こゝこゝ
弁引所

けふ海ゝなり
秘
あまりとすくるゝほいて
薫乃心
そう世中をしそう
第中夫乃さ海を薫の心ほくるほ心
いう〳〵ゝいとおほくまさして
第薫乃昔うし仲の時よ心
この文ゝれいてゝ
白文乃中ゝゝゝ
あゝ年てゝ心やもきさ海ゝ
第ゝれをゝ乃りゝ人よゝ
ゝ心ゝ
さいうゝふけよ
秘第ゝ絶し
ゝきゝ人乃ゝ
第大夫乃事

ゝれゝゝ心ゝ
第大君乃事ゝ大ゝゝゝれ
あゝ事ゝ心ゝ
ゝゝゝ
第白乃中夫ゝゝゝ
ゝゝ心ゝ
薫乃中夫ゝゝゝゝ心ゝ
白文乃ゝゝゝゝ
何ゝ心ゝゝゝ
秘中夫白文ゝゝゝ
ゝゝゝ
第薫乃事
きゝゝほゝゝ
何ゝきゝゝ
第引ゝ月頃ゝゝ
白文ゝゝ

いとあはれなりけるく
秋 白菊乃御
家 中君乃心うつりもきさきなる
かりそめのたそかれの
秋 菊よりちかりし
めはゆくしくさく
家 白乃御懐妊のう
うちとけぬ事
秋 六条乃御ろく心
家
くるしきをうたてやうのうんと 中君乃心
秋 男いとつれと年頃あふ物と思ふかのよく年 家
あれちなりつる人乃
秋 菊乃御
家 年ころ菊をあはれなる人と思ふしの事(詞)をつくし侍
つれなくはなまもきるやうとおもひけ白菊の花ことばかりのみか
えれてはいられそうめむきるとつゝ年よりまさるの

ふ乃御ゆくさきの乃あい
秋 ふつゝ菊ふ乃事をこそうのむ(ふ仕)年
しゆめくて入きゝしれてよ
家 菊乃しおるゝ中君のこゝろ白むるい中引さするやうなる
せうし乃人ようくてるふし
家 大君よりなりしるし
久しくくて孤りなる
秋 白菊乃ふてのう
家 白乃ふくて白菊をくのたひよりてとゝ乃
ゝ白をゝまつりやうよ中君のしのく
かの人のうつり
菊乃薫香し
ふれみちの人に
家 香乃みちよりつきふ白菊をれば 又はなの色のふ心の
つくるとこゝろ
いとくるしとこゝろ

中君のさま

さまいよいようちて侍るべし

実 白乃御心ゆ

ひとへに御そなくしぬきいつ（なひて）

実 地をいぬきいつ（なひて）と多に侍

のうつあつてもあるべし

白乃うつくしとりうし

ふらく多そとき所なき

秘 中宮乃仰 実

宮きさきなる海とうを花を

秘 東宮と立后ついに立后をとまきこと

寄 うに紀よの花やよ東宮をよりて

実 海となるを東宮をと立后とまきこと

人うとなる海よ宮人地をと

れをうに紀よをつようちそむくきうとよそあれ

花 人なれ我をうに紀よをれかめつまきをとと仰うれまん

七業中宮の我に六君ようさに紀よむつられ侍よ所よう

なるとうちうむきあるに

寄 三月十七日乃御のうつをとを

よをそあまをうに御中をとに

ハなるべうすとを

秘 三月十日 回 我をうに紀よをれかふとをきいあるに侍

うつ乃御中をとにあまうよ

秘 業 立后乃御をとのを（ハ兄ル）うれ兵中宮と宮

ハかしかしふるし物るを中宮乃物乃のうに紀（むつられる

地をとを宮なるハあまうをとをみうきル

実 花宮乃業又秘小宮ノ業乃

ををうに宮人あるうに紀をうに紀よをれ物をうかハ

人よるるをうとを何をうに紀をうに紀ハ

あき白こをとものむまきとかりせをうや董よ盃

乃れと業乃をとをつけてうをみをと白乃六

宮ハつをて我をうに紀よをれるあとを董ハあいをとをうを

の侍ふるし 私 業ノ業ハ

又所心ときめかしうちの
秋いくかの夜をしもあかさねど
いつしかなれぬ人ぞ恋しき

白乃袖ぬれまさる中宮いとあはれなるに
又人よりまさる袖のうつり香と
紫式部
もとよりうちもしめるあり中宮のうつりけ
いてはいとど
いとあはれなる花と色かさねいとあはれなるの袖
高貴
高貴なる中乃宮とふるうちそやうけいる花
弄ぶうち香よりまさるふる
花ぞ
花ぞなれぬる人よりまさるふる
うつりとまさるふる
秋ぶうちとうつり香ぶうちとしかけて又やうけ
かしつ
紫式部
美花ぶけるとうこうりかてそ
秋ぶうち乃所よりまさるとく〳〵きとも
紫白乃所
ふるうくと
白乃中宮とかめかしきぶよりまさるあはれとかなとも
紫式部
美紫式部ノ祥元
つぶやく
白乃心よりまさる中宮といとうとく〳〵
又乃白乃心乃とうよ
白乃とまり袖乃塵乃のさはぬ
所ぶうちとしてとさいうとうやく
秋六条乃所ぶのうつりやく
紫
ふ所乃宮ぶうちまし
紫
紫式部
美ぶうくしうぶ所よりまさるあふ
紫式部
美ぶうくるうとて
紫式部
美紅乃紫乃いつまでとと
秋ぶと中宮しかうくうはるうるし
弄

何ゆもしそうるうしく 秘六条の白菊のいさしうゆるそ(ゆ)
はりあるゆ(ゆ)の御ふそ
実六条ゆ
そらなきあり　花そ(ゆ)くしるきし
実ふさしのふき所ようふさそ
まろようつそく
実中君の御文ゆ
ふ御うつくうそのいらしるねかそよ
実白の心あの中条の菊のいさしもあと我つそ
くかりそ所ようふうしきゆあそ秘ゆ
心けりのそさるきと芝六条のゆといてゆよくきう
わいもゆつきらうき百
芝六中君の御ゆ
ふれそうそうそるあるの
秘兄中ゆそ人のけちくしいそ
しきゆ中条の御ゆ御とあり

ちきこつしこうしり　花御厨子小唐櫃し
いとかりこいあし
菊と中君そくゆそのこいあしと白の花りそ
かの人のくきし
秘菊のそあり　実
そりそえいそ所ゆ
心そふくて花二条院よかいそる
六条院おいゆこそそこてしそし
秘六条の御ふし
いつのりそよつる御ふそ
実中君の官女の六条人仮文のしけきを花しる
こりかりもゆ
実白の二条よかいるゆと菊の心よ何ゆ花えるゆきこの
ある
そ心の花こゆくあ
実中君の為よれと学人の御ふしの
いあるゆきゆそくこゆそ

さいしてえおり　もてさめうし
秋　薫乃うへ祝うへ心よ心へ　中宮とて　紙ふ
しもとと　義

人こうけうるの
秋　中宮よさふ〳〵を　ふるやうへ　義
母宮乃御こうらん
薫乃母女三宮
思いうへ月のかうしの思てよ　女三宮の詞
弄　薫乃心のすこへ八種をたれうあきさへの
はるをと　九月をとしもしへ
秋　九月八秋月乃はいはるを
実　大宮乃はるのとあうへ
私　義　実　大宮乃紅月ようせうとうそへ例八
うへ月のはるをとあれい　正文九月をよかとなるは
るるや
ふうへ　薫乃刻しまて深をうへ

へうれをいそきてうそ　せうせめと乃ふ
うへふるきねあや
いまうへうあぬるうへ
うへ乃御まうとたほしきはまうへうける
秋　中宮の御料　弄
実　中君乃仏まうへ薫乃まうへ
うへ乃ぶいふうけるよ
薫乃まうへ乃きねなれい女のうへ海乃ぐいふ
あうへ乃ひとりあるを
花　ふうへのるし
薫
むまうへるを　とあるてひて　すちようへ
秋　腰乃弟すを　ふるうへ
と　我ふうへむ　ふうへ海乃
実　うへ一をちうへ腰乃一つあるを　とて　下の心を　とるる薫
のうへ　白　少　とうへ　され方
うへのるれい中宮と一をちようへ　むきやとも　西日

大輔乃君と
[illegible]
[illegible]
家薫[illegible]
梅[illegible]
御[illegible]
家中君乃[illegible]
御法[illegible]
白乃[illegible]
[illegible]
家薫[illegible]
[illegible]
大輔君乃中君[illegible]
[illegible]
家ぬ[illegible]
[illegible]

家御[illegible]
[illegible]
家中君乃御[illegible]
[illegible]中君と[illegible]
[illegible]
家白[illegible]中君と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
家白の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]中君と[illegible]
[illegible]白[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとやすらかにしけよ　花とりうちかねのとりて八重の花の
秘不足よりこのものとなりて八重の花の
ろうの人をうらやましがるなりとよりて
花はいとおもしろかりけるかな
やうなる
ねはいとおもしろかりけるかな白菊こまかにうすくこきにうつろひて
ねはいとおもしろかりけるかな白菊こまかにうすくこきにうつろひて
里なれぬるにはかりそめにうつろひぬるもあはれなるかな
にわかに中黄のこきにうつろひぬるもあはれなるかな
まことに中黄のこきにうつろひぬるもあはれなるかな
六黄の御方乳母
中黄は山吹いろ白菊の御方
ぬるとこそいとくちをしけれ
とこそ
菖蒲中君の心ばせ
陽心ばせ
なるとこそ
見るとこそ

いまさらに
秘おもしろうあはれなるかな
いとせばかり　弄

秘結と織り料　弄　付綾料　糸事
花とは
弄菖蒲　秘　白菊の
このものの
八重の
うるはしくもあるかな
いとおもしろかりけるかな
花かなよりはかりそめにうつろひぬるもあはれなるかな
弄宮仕
人のあいなくうらやましがるなりとよりて
秘菊の
私かやうにしてこのものの

かくて行いそうしろやそくに花紅しくて

秘 薫乃こころ

薫の心乃こゝ和こゝろ中黄いこゝろ乃こゝふとゝかく

てるさゝやと花紅しこゝろ

日よりよりもねんしいかくとゝかう

秘 中黄乃心していかくしんしいかくとゝかう

さゝなこゝふこゝろ乃りこゝ

さゝなとれるこゝいこゝ薫こゝ中黄と兄弟乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

かよゆゝうこゝも和こゝ又夫婦乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

のこゝろこゝいこゝるこゝ和こゝいこゝさゝなこゝとゝ

和こゝれをこゝぬこゝ

薫乃和こゝれこゝる心乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

いこゝいこゝ和こゝぬこゝくこゝけこゝやかこゝるこゝいこゝれこゝ和こゝ

花 新京乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

秘 皆新京乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

年こゝ先こゝて和こゝ和こゝなこゝに乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

みこゝれこゝなこゝこゝいかこゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

の

実 小和こゝ人こゝて心こゝよこゝりこゝねこゝなこゝり

実 心新こゝりこゝなこゝれこゝてこゝてこゝいこゝまこゝ和こゝるこゝまこゝりこゝ

かこゝせこゝりこゝけこゝ人こゝりこゝこゝ和こゝ心こゝと

実 大黄乃花こゝせこゝ薫乃中黄こゝいこゝけこゝりこゝと

こゝ乃中こゝいこゝくこゝりこゝくこゝかこゝ乃ゝ乃ゝ

実 白こゝの心乃こゝ和こゝ和こゝりこゝ薫こゝのこゝけこゝのこゝりこゝまこゝ中黄こゝ

乃こゝ黄こゝ和こゝこゝ和こゝこゝりこゝて

秘 薫こゝ

花こゝて黄こゝりこゝよこゝ花こゝこゝ

どこゝ和こゝよこゝりこゝこゝりこゝんこゝあこゝよこゝて苗こゝて黄こゝ藤和こゝ

こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ和こゝ乃こゝまこゝを

実 薫乃心こゝ

こゝやこゝまこゝせこゝ花こゝ乃こゝりこゝ花こゝ和こゝ信こゝて

実 信乃こゝ乃こゝ和こゝ乃こゝ乃こゝ

秘 薫の初醫所信こゝの新こゝ

地乃こゝこゝき こゝりこゝこゝりこゝこゝりこゝこゝこゝみこゝこゝこゝ

[illegible]

秘加持の信心

[illegible]

筆母屋の御[illegible]

[illegible]

秘中夫の心[illegible]

筆[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]いつもかくくくそへ侍る昔の人とも
秋中君の昔の人とハ大君
かくくるまもしき人の[illegible]
美大君し胸とそこのうち[illegible]心を命をまもしき人のくるあ原
と人のいひしも
けようしもみとせの秋すぎぬ
河うも世の心ようるる雁の雁しみとせの秋すぎぬ
秋引かへ日　美引かへ日妙なる法かな
年引かへうくもせの
[illegible]
秋かはる
美つまぬなる中君いうの[illegible]
[illegible]
美中君いてゆ風よりいひなりあるとし
けよあるうきにはいとそ
美少ねのよるるあんとうなる原とうう[illegible]

風君の所とを
美大きこなる
いいなるるるる程ちなる中を云ふをなれて
秋薫の初し
美薫の心いつもはいはいの
うきねるをのなるすす
美三年うきねるるトアリテこ文字ハ古本ハ[illegible]年
被見合知ハなるうきあるの[illegible]
秋大きこよるるるの[illegible]
かかいのしるるいやるる
大君よ心のるるるの[illegible]合なるの[illegible]
なるさ見ハうるるるこ
大君の[illegible]
ようにかるざ海よい
大きこのるるるるるる
心のいくるるのつるるねるきなる名れ

人まの心にまかせぬ世のなかをうき
世のなかをそなしと一つとなり
よりのこしぬ心の外
業 葛の葉法師なほるもし
うきなきみきこしめす
花 なきさこしこしこしこし紅つしなり
うしろ姿をうきこはは
秘 中きこの紅こうこそ
業 大ろの人こそ葛の花せくらしほ
多しる事なし
業 葛の葉法師忘の原切なほる
とおれしなとかろ
業 ひとこつもはきなる
さ屋なほかもかし
秘 葛の紅中去分より葛
市をしこきるよの
花 平

業 さ屋の市もこそ一度のるよあほきるよの
忘の御心にとしてこそきこしこ
花 宮法のるこそとはの世のあたくきよゆて
としく心葛大拍の秘方こよかこうしてこうり
うんとこうかのめしこ
ありてこそこうけほ
松山家
業 宮法の市ゆこそこれとこ
秘 こうしてこうれ山星の宮よ地の拍つ
御うしこほこあり
業 うれもこあくこめされる
秘 うれこうれくこうこ
ほのこうこ
秘 花の山なし 平 業
花 二条院の法の法山をこ
つきこうこあほす 秘 平 業 引 午 何 同
何 こうさのきこたよあほ世こうきと

[illegible]

花 [illegible]

私 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

こゝ[illegible]もそ[illegible]
秘昭君のことくあるきをしてしし
弄昭君のことくもきをふるあれい
実花の蕙乃花のことく畫工何ともかとゝ[illegible]
似すい曲しふ[illegible]人散くよりきる人といふ[illegible]
[illegible]

河蒼舒云漢元帝宮人頗多葉令畫工圖之有欲呼者
被圖以召故宮人多行賂於畫工王昭君姿容甚麗無所
苟求工遂黙其狀後匈奴求美女帝以昭君充行既
召見帝悅之而名字已去遂不復留帝怒殺畫工毛延
壽 在詩注

そよそのことくこゝもいてつかんよいつきを
秘不言不笑ことにいたいしかるくいたるを中君
[illegible]あふる
ちりき世よ花ゝをふたくこゝも仰りをふと
河ひくゝ乃ことくこゝ[illegible]動付 鳳驛近

花水原云ひくゝ乃ことくこゝ世のをうしをふ女とうこゝて
ゝをつゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
とかゝるよいしをふるもとといてゝ或説云いかゝくこゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
実術まて花ゝをふとあるこゝ[illegible]
秘弟愛を限すふ巧ゝ[illegible]
実匂きゝ人乃ことくとをふるあるこゝ[illegible]
いまをこゝ[illegible]
秘中君匂ゝ
実蕙乃原切よ大君のをとのあゝ心くゝてほ乃
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

実 薫の心し

[illegible]

秘 [illegible]

実 中君のなとと[illegible]ふとかるよそをとをねうし

[illegible]

秘 中君の初しも宵寝のもとうら四[illegible]

実 [illegible]

[illegible]

異 中寝のうへうるうるうし

[illegible]

実 [illegible]

[illegible]

実 服の[illegible]

[illegible]

大寝よりはるかに[illegible]

[illegible]

秘 中君の我身[illegible]大寝よ似[illegible]

[illegible]

異 中君とあのうへうるうるよ薫の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

実 [illegible]

[illegible]

秘 薫の心し　花 薫の義[illegible]

実 薫の心義といまとなるねよのやうよ[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 薫の初　実

いとやそのかみとなりにけり

秘中君乃詞

家いとふるかしとしるかるもとに

地をうるおきあるうさはなとともとして

秘大君にたつせをは地をうるおきるに中君の歌ひとつの上

てうるかと

私芝八宮乃姫君にうちあまりさかりとなる

ろめるけはかりとし

しいとうきあはせて

私あまりとあるつまとして中君ひとりのをうるおきうはか

てうとれるよりそのうちいとやをくんとものをよりて先牛

と蕙の雅うるへ

又あしなきさはうちをして

秘我身さへあるはよりあしなきるとをうてうと

のをうをうきみをよ

秘蕙乃雅うるへ

文乃思しして

秘瓜八宮へ　平　美

思ふ事つとをきうもをるへ

秘為乱服をるへしと

河むもをしをくるこをうをうはかりをはかりの系とつまて

秘平　美引平日

ふりをしいたるくい

秘蕙乃詞

さたるをうをうてをして

美中君乃のうをくいたすつしをうしをかを

しうの物とかををいあへ

秘中君乃詞

くくくくもえをうをや

中君もはをうをぬと

あをいいおをうも

美桂雅とくくくさいうと

[illegible]中[illegible]乃[illegible]
秘蓬莱山といふ楊貴妃乃
平方士市
蓬莱市之桐壺巻よりつゞきて西にけうかの日かもと
[illegible]
付又雲水四廊上下東極絶天海跨蓬壺見家高仙山上多
楼閣西廂下有洞戸東嚮閣其門署曰玉妃太真院 長恨歌 傳陳鴻
いとさきて宮人きはいあり孫と
秘宮人をたゞにたゞにいきるあり孫とゝくさあるきこう
[illegible]乃[illegible]
いとやいうしこ乃衛中[illegible]
秘中夫乃相いと乃学[illegible]
くらるけをを
付口輕[illegible]
中夫乃[illegible]
てこそくまても[illegible]
いとをき所よ

常陸[illegible]乃[illegible]
花 常陸国とい
秘常陸乃ハ陸奥乃[illegible]
て下りけるや
世乃[illegible]乃[illegible]
秘[illegible]夫乃世[illegible]
乃[illegible]
[illegible]
仏[illegible]
花蓮乃仙里の[illegible]
秘仙里乃[illegible]
蓬乃[illegible]
佛[illegible]
[illegible]
さまていいうてハ
[illegible]
[illegible]
秘蓬乃[illegible]中夫の[illegible]

あるもきるもとよりうすくそめつる
実中表の心薫のあいのるる
けさうよはしるくいもてあるねを
付記證心
実記院しあるつようくもてそるれいえをねと薫の我心
のうちと中表のそるるうちもさて入ねるれい
私いと面るいもをすして入るる
実中のさせて中表の内へ入るる
あけきうちるし
薫のうるるさ面
くるのとうるてい
実薫の我とけるもとうるるねい　付練
私ちるもるい薫いさのと練しるる表薫い練しるねるるる
実好色よ練しるるる

いとまあれとて

秋蕉の句

人のうへとしあいなく地をたすけ

花 風雅集のもとゝ云ゝ

秋年の句大夫白文のほとゝ

心人のうへとしあいなく地をたすけ

よつねよりいきれるしは蕉

実 雅居中君の句中に地名

いけとはねは中とし秋の風

河 秋ふくいはるゝ名の風

けよりのけせはすしもたるき世中のはあるに海

実 大夫のうけせのもしるとはいてそのもの

六夫のもの世まて

居の中世

秋 中夫の句六居中君中に地名

思ひとりと弁

実 中君の句今の地名と弁居の句合せ

海くよる

ゝ大夫と中夫とのるよりけるの詞

とあるもるあと

秋 蕉の句我身中ゝちゝとをしるれ八一入のかきと

かゝれいかゝとるあを

中夫の句もとゝ

あはきかく第一たつを

大夫の命ゝくて今の

はゝ地名

はしりの附あゝ海

秋 白文の句

実 白文と六夫のかゝ

るとと

ゝれとゝ

私六夫かもとて中夫の句

とて毋くむしきゝ

秋 好勝の句ゝれもゝ世と

かの附きにゝの

秋 大夫の一廻と弁三年と云侍不用ゝ

実 弁三田九私一周三

[illegible]
美 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]
河或僧託云観音勢至むかしの人なりしが国地蔵
よ継母のあるうつくしけれども仏法よく入れけるを
[illegible]
弄見河観音勢至乃因位つねよ仏道よ入るとて
秘河あるよみくらもいうの心のまゝの修行とをそ〻仏法
[illegible]
美観音勢至因位のる出所[illegible]
まゝとき拍子うはるをとつてもちゐるのをそれ
をそづてまよりて拍子をそれよりて仏法
[illegible]
秘退心不[illegible]
こよろこをの
河暦博士 推古天皇十二年甲子正月戊午始用暦日
仏御をそ〻[illegible]

寺をそ〻る祈し恵仏法をの法令あ[illegible]
[illegible]
秘恵乃宮めの
[illegible]
秘恵乃心し寝夜をそ[illegible]
[illegible]
秘年よりほのの
京乃宮よりをそ〻き拍あ
秘中宮乃[illegible]
美[illegible]拍あ[illegible]
仏法大納言乃宮の[illegible]
秘拍木し美
[illegible]
秘恵乃延生乃[illegible]
[illegible]
秘恵のあ[illegible]
[illegible]

[illegible]
実 柏木八条大臣のもの
[illegible]
秋 中君 実
こひ[illegible]
大臣のもと
こめ[illegible]
秋 巨七　薫乃ひ
[illegible]
秋 中君乃事
[illegible]
秋 [illegible]
[illegible]
実 [illegible]
秋 薫[illegible]
[illegible]
[illegible]
実 [illegible]

秋 中君乃[illegible]
京[illegible]この比[illegible]
秋 弁の御
実 宮乃母[illegible]
中将乃君[illegible]
宮乃母と[illegible]
[illegible]
秋 八[illegible]
実 女子[illegible]
[illegible]
実 [illegible]
[illegible]
実 八宮乃[illegible]
の退出[illegible]
[illegible]
[illegible]

の紅ゐをふらんに
美八文字屋本
さて又いろいろよみて
秋初陰奥守みちのくに
かりそめにふる
中京の御あるじ
美浮舟の巻
秋蓬の宿
みやと呼ばれてもあ
美紫のきて蓬の宿
むしの音はけしき
大宮よりほかに
ふもまへ紅ゐ
八文字屋の御女の
秋京国とうとう浮舟
美浮舟中将
美浮舟の巻
秋蓬の宿
美浮舟中将
美浮舟の方
秋八文字屋の御墓
秋蓬の宿
秋景氣
美懐旧の巻

ふてうをもそうしいきうせをいて

付木蜻　つるのうらいた

花木蜻い木よりつきうる虫の名

実菊の類心一茎又云木より出る虫の名

蜻竹治功身　小虫　木蜻玉篇

秘菊乃類心とも

実菊の数しちと葉のちいふ花をうらせといふるてきこてう

文とかりしくて

蓋　白文（し中実乃花うえ（をる）

屋ふうきと号ひて木のもとの花ひとしいよさしうる

秘昔乃名孫と号ひて　いたしうる　花にて　蓋は一

生をうり而ふく号ひ乃日東坡吾生必寧耳といふる

とくいつくとしけるめさるとも

実うり初と子一束とうあり　ある　ある常住のことを号ひ

私やとう木のきのうえの屋とうてあきとうきれそのつか

所にしかりて木乃文ふ乃

九十二

あきとうふくら木のもとやうきと号ひ花をるりのうあり

秘あれふりけと何しに云て一束をあり乃一ふ孫よあさ

うに昔と号ひ乃ふ（ふゆ）とあつしをるとも

実花乃字の注し

いさくかのうくさあるい

蓋乃心し

文うもうちてまつれ（いかとこ文かしけ乃花をうう

実文ふい中実し

秘れうり自文しかりまする時うへ

みかこう乃文ちうし

実三条文うり二条院心

秘三条文をいつかうし小乃院よ条ふとうて二条院

乃南をしはし　実

をいつしつきるもうそと

実けさうくちふるをやあんと白文のかいるりとあ

い中実のくうくかを注

日うるおにゆう
秋文乃紛し
いとゝみゝの物語り
けうりはくの物語りをし侍りのこゝろつきせぬ世中乃うきさ
秋引手日いとゝ乃字おかり　弄字治の紛し
弄うり乃くゝ乃乃弁はい　弄
御ゆうし給てうれしく
弄彼所ハ中君乃知あり人ハ所ゆ
うくもつまをかく
秋白乃紛
弄御ゆうしかくさをけるくうけると白のくゝ
すうしはけよさやあをつゝ
秋菓子地し　弄
あなうらやうくゝ乃ゝとうりとおりてうらえて
やうよゆゆ（きた）しようけると白のかをるを知てあるゝ
乃花を中君のうらえんするさ侍し

ゆうきゆ紙へうしやとて
秋白乃そくくのしゝゝ白をゝゝまつまと
山さとの御あうきゆ
秋花乃紛　弄中君の文乃紛
弄字治乃弁し
さゝうそうそうくと
秋尝よゝしてようるへしと
とけうよゝいゝの中
秋ゝゝ乃山をもとうんうとことけの紛物と御ゆし入（き
乃ゝあうり引手いゝゝん巌の中ゝをまいゝ世のうきるゆき（ゝゝん）
弄引手日とゝゝ巌の中ゝうるゝんうり字治をまゝ
ゝうし　弄
とうゝをもうん
秋とうゝるにうけうしうゝ
ゝ花の地ゝうとよ　秋と菓ゝ
花牡乃御の菓ゝ侍ゝ花をくきゝ乃ゝ出てゝ孫ゝ神とうゝん

[illegible]

秘小花のさかりなるに　私小花点

寛　清　白文　かしはねは花なりし　人々思ふ所あり

美　西院の[illegible]　中夫人の下の[illegible]

[illegible]

秘　蓋の形くるまのごとくにて　心のまま

[illegible]　白の形　[illegible]

[illegible]

寛　[illegible]

[illegible]

秘　白文の花さかし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一寛　[illegible]　又琵琶を大夫のひく

中夫[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊の花うつくしもうつろひにけり
弄尾花の花の海の時ふるあつて
私菊の花うつるといつてうつろふを海に見立の
尾花の時ふるしうつろふを海に見立の
ことをつくろひたてまつる
案白文菊をとりよせ
花あるをまうをほうして
つくるをまうをほうして
いつまでもこのの花菊のうつろふの中表のまうをほうして
花の中にいとりもつて
河不是花中偏愛菊此花開尽更無花 元稹 朗詠
私詩 円 案円
私は菊を分て口すさみ
あるこの花をこの花をほうをそしいつてのうつ
琵琶のもとにしつ
付西宮左府庭前霊物降吾樹上託前遊小児詠此詩

教作者之本意尽字兼清琵琶授秘手曲小児醒
廉義武之美也授上元石上流泉曲
又天人比巴ををしつる事
孫さ兄乃中表といつて
案西宮左府事久つ孫と法ふ
円天人乃けはひて
私西宮左府事之親とつ孫兄乃物流よあつ廉義武力美事
未代まい奇瑞なるかな
案花菊のうけしつ乃事比巴よ分ての事
なるい西宮左府 高明菊をもつて
していつて人乃比巴の
出わいこつ沢 九うつか行九寝元 宗松乃物語を
推乃法しあて 業平の 臣氏物流と法業乃つよあて
しけ物流して 皆金
附 ときなをと 案比巴と法の地あよいつ
花こつよい比巴をはこと法乃業をはなかよそこと

秘琵琶

秘中表乃心　家

秘中表乃初　面白初　面白初　面白初

秘中表乃初　面白初

秘白乃初

秘六表

家初心

家中納言　花鳥乃家ふ

秘花鳥　中納言調子

秘蓋　蓋

秘比巴　上ル　黄鐘調乃かき

家相乃　盤涉調乃さ

秘盤涉調乃さ　比巴　黄鐘

作物乃

行 伊勢乃宇義乃利支与ハ
乃利曽也津未あ〻年宇加比や比呂波あ〻年せ引多
未あ〻也比呂波あ〻年也伊勢海
花 伊勢海津乃うし盤涛調し津の平間よき多〻ふ
や郢曲乃家ふらねへし
秘 白宮催馬乐とうたいもの多〻
実 第乃言とを免てうたいもの多〻
ふ心ゆうしまする
実 白宮乃うたとをゆう乃ト初
乐なまへとうたいも并人と
実 中表乃まとをしいう初し
又ハ乃てふ乃ふ乃ふ
秘 宮乐一曲ハ多〻ふ也ハ乃あるとゆ
三月 二四日こうゆうして
実 白乃二乐ハ御逗留し
乃ふとのようふうく

秘 六者乃御ゆ乃
たうこうちう出ふ乃ふ乃ふまたにふ海ハ乃ハ
実 久曽四ふ退ゆ乃ふ海ハ二乐院ハ乃ふ海
ふ〻ふ乃ふ乃ふ海して
実 白乃初久曽乃ふ海をふ
ひつふ乃ふと
教懐とうふふふ心ゆ乃ふ
あるまよゆふ乃ふして
寝殿ハて久曽一白乃對面しあ乃ふ
ふとふ乃ふとあき稚山院を見て久〻ふ乃ふ
秘 久曽乃初し山院と二乐院し六乐院乃出ふ乃ふ
ふふふふふ実
并山院ハ二乐院し
見てゆうしまきこと稚て
実 連軒し
ふ海てくしあふねうくつしうふ乃ふ

実 中君うの人のいしくのいとまいて風の指すと痛の
文の心なり
きうまかし　年ふかくうれ
実 久方をそて人くの心もし
ひとしのよりの人へさのなりの名を
実 久方の子息のうら似合しなくとも
けむしよりの人へのうら
白文の心は定よりのうをうらめてうつ
たうつもつはいかるあうつ
秘 中君　中君のうの
もなやうなかれなりしよ
実 六君うの事
恋心やもくうりねなんのもうろ
宗法へ隠遁の事
もかくてうしうれね
秘 二年十巻そうれねはなり事

正月　秘 正月廿日ふうりもいうふうねさ後よのふやうう
実 蓬生五月の三月　早蕨の巻の年ゐて次のをのうを
秘 蓬生　ゐを蕨巻の年ゐて次のをのうを
せうりのくたを玄年の月より懐姫巻
実 玄月の月よりの懐姫ゐ二月よりあうり
文まれりしうるの事
白の庭ゐの事ゐとうりはいね
又くりゐ
始より終くの法のうのゐは月のうのうを
きさいの文うり
実 月石中文より中君とうのうしうり
かくてまもるゐ成ゐ
秘 かくいかゐのうしうこのうを
実 中君の子文のかうりうを
しと所のはうをうこそ
実 白文のうりこそ無切しうゐ界うのうのゐ巻を

はるかに二条の院にまゐ
山前の菓のもとうるさてさそうり
秘 菓より始つるとそは脈とりわけ蔵の大の牛をいれら
久
寄てはかなくうとは女房童の脈よりていひらる
はるしるきくしりそはしくそけるみそけ
秘 奴女はるかに毎月みるとの法つるとはけるきて行
起つ結句計れ毎月は無切ゆるれよめそくくへのあ
とんをるとや
はくを取
秘 物のうりをすする取也 何作物不
秘小云 寄実
朝任半行す秘 国ちよ作つけくるや
と国の寺年 受領せくるの於付の課役国寺に作らる事
よ作てはる
者ゆ やそりの狂よ集りかあ人へるやるよ
定くるなと 秘 菓のきりれあるへきとや 寄

私小農著の比うり菓まりしるよ一しと
男うしいつるしるしるしと比るしと
実 菓のるのまし
連いのまるれい
秘 菓の公をうれを
よの所まのを
中古のまし
所をしるいまし
秘 除目の任物筆ロ行る 寄 次よ任官あるを
先度除目奏差のるよ直物といる
秘 除目の後物筆直物ゆ申行也
河 直物 賜ロ或京官除目以後あ三月と注てしある
或除目以後あ三月と注てしある
任大納云よるりるしし 寄 大物るけ於つ
菓の任官並官のるよ
太のかいとるたるそ
寄 竹川昇をのとくるかた

秘 紅梅をる〻〻竹に巻の幕をよそをる叶地紙源氏
物語
実 山左大臣紅梅をる〻〻左大臣左大将をる〻大将と辞して
の時の右大将左大将をる〻〻の薫の大納言に
てたる大将と芝をる〻
よろこびをのく
実 薫大納言大将の装束内裏より〻〻発て西ゝ廂
にをる〻〻
中者をる〻〻くれいすの白文二条院よりの則
薫のをる〻〻よりの
をる〻〻をる〻〻いてゝ〻〻
実 をる〻〻〻

暫留於射場殿令奏慶拜舞〻（山間一奏饗ヨリ） 渡南階
前退出之間近衛ハ候庭際忽然發物聲撤簾放歌
千時摂ハ卿及次将以下出後敷政門向里亭共ハ以下
垣下ハ卿各著座（上ハ次ハ著外ハ内） 座先近衛以上六位官人於
庭前千舞既著庭中座次ハ卿及中共ハ座立立
机相次立机食床於庭中給六位已下有物盃酌
等之後被物絹ハ各有差但新任大将若在里亭者
引可到其家次賭弓勝方饗准是可知（日以親王
為垣下蓋故實耳勅物ハ大将上爵不来有親王大
将著中将上（今案大ハ初任ノ時その方ハ中かハ以下を
結して大饗のもと行ハ）禄とのもとく白丸戸のみ
こと饗ハ結〻中さもよりやうにて
（ミキノヲヤイトノ）右大臣ハ乃〻ハ
美々乃大饗の例ハ蔵人ハ
ものもとり〻 義

乃みこ〻ハ結伴を垣下と云
河垣下 大卿（饗）食
花垣下乃生〻ハ
ハ卿ハ大ハ
親王ハ
白丸ハ垣下乃庭ハ結
乃例ハ
といひ〻 義
乃ものもとり
等乃〻 次ハ辞退〻 ハ
中君乃心ハ
ハ六条ハ
ハ次
ハ
秋中君ハ
ハ
垣下
義
大変のハ
ハ
ハ

[illegible]

私少雪ふる日桂殿のまへよりて中君のもとへ
雪の朝の歌をもて[illegible]
[illegible]

美中君の若君男子のとうとのもとへ
大将のもとへ[illegible]

美薫大納言大将の昇をよそへ男みこうとのるを恨めるこゝ
[illegible]

白文の薫の禄をかとのもの
[illegible]
[illegible]

誕生の悦

私ふたなゝ[illegible]産穢なれいせ
[illegible]

美産穢の日白文し
[illegible]

美白文なり
[illegible]

[illegible]大将殿[illegible]
河園碁出銭

碁手銭

秘碁の[illegible]

美[illegible]ときの碁をとらせてあそばすのけぢよ
[illegible]

花李部王記天暦四年七月七日是夕藤大所有産養
産帰饌衛重十六合破子食七荷兄食八具碁手
銭二万贈物児衣襁褓各五重納文伝木莒二合有白絹裏
使大蔵丞藤原守忠傳言云物雖鄙陋今宮所贈蓋
可有意報云恩問倫至恐喜兼深況美宮恩令忻恐
元極帰運以白細長一重袴一具寺忠令直出門追偽
報賜禄

こもちの御まへのついでに三十ちこの小そいつゝをそ
はむつきをそえて[illegible]す

河天暦四年閏五月五日小日自中宮給産餉息所前衛
重丈枚面打敷六用蟬翼有銀詞著上洲濱六酒壺如、

如例有男女房饗各用朱臺盤荒純食十具皇子
御衣十襲五具唐淺五具平絹 褻五具納深折櫃四合置中取二脚
九条右丞相記
同記云當年七夜姫君政所設饗饌具來御前衝重
北前鍮面打敷有銀司同四枚著上洲濱又有酒壺具
一具又親王以御料北前西前繪打敷四枚碁手五十
貫純食五具冷泉御延生記
四条拔日右衛門府奉碁手錢威札立砌取召使農子置高坏官人取立王舞倍
新依例令停止
依例或有囲碁之興此間或府官勸盃
美 寛仁元年天暦四年冷泉御延生乃例とて又御子うこゝ
人と産婦といつて則御うちといるそし
文乃御まゝもせんうとうきさつきとしたしむて
まりしせつて
河粉熟 校本私云今ノウンザウ校ト称セヒ河海ニモアリ
秘點心 節會ノ時しきし餌飩といつてうどんと云物し
花粉熟 五穀と米をまぜうして粉にして餅にして
ゆでゝ年菊をうけてうゝ
して其中にうゝを入てちりと紅にして出て
其梁双六乃相撲乃とくまるゝうつか抽紙 白紙の上
小乃行とうまゝ人乃御行ふかかきまゝを形
うはうちつもしふぞ
私云ぞく乃御花宮云流るゝ
七日乃夜にきさい乃文の広うゝ
明石中宮
文乃大夫とうめ
秘中宮大夫心 美雅もも
四もきうして 美御をうゝ御釵
美 上上七白文乃物しふかゝ
大ものう
秘夕雲し 美白文乃乃もむきの東理うし
御うつゝ 秘中宮し 第四池心 美

我ゝさまいけとそくや
葉乃ゝ[illegible]御子すけとも[illegible]中宮のゝ[illegible]
とゝ[illegible]又自女乃ゝ[illegible]
とゝ[illegible]
て函[illegible]すゝとも[illegible]葉乃性ゝ
そ乃月の七日あまのうそ
同月廿余日女二宮ゝ[illegible]
心ゝ[illegible]
[illegible]
女二宮ゝ[illegible]
[illegible]
今上乃御心をゝ
[illegible]
[illegible]
秘花[illegible]
花[illegible]

公醍醐皇女勤子内親王配右大臣師輔公同皇女雅子内親王康子内親王共配師伸公同皇女靖子内親王配大納言師氏ゝ生一女昭子内親王配大納言源清蔭卿後配河内守橘惟風村上皇女保子内親王配貞信公感子内親王配右大臣顕光公保子内親王配入道太政大臣兼家公ゝ貞信公非也相國公良公押紙ゝ

ゝ業兄ゝ大乃例皆ゝ脱屣の様成ゝ崩御のほゝ[illegible]
[illegible]
朝[illegible]
[illegible]
乃例ゝ[illegible]
私師輔ゝ乃例動[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

こ院くるゝ朱雀院乃御車よりうせ給て
実源氏中　実　私そゝ[illegible]乃御代よ蕙とむこうの
[illegible]
かゝるゝ文を
秋女三文し
実蕙乃母文女三とゝ[illegible]
我ゝまして人もゆるすねゝ物を
花さゝ[illegible]乃[illegible]の一条[illegible]
いてゝゝ[illegible]
秋[illegible]乃御中し　実
大殿ゝ[illegible]
年今上女二文乃御とゝ[illegible]　実
秋二文乃母ゝ乃とゝ[illegible]
ゝ乃[illegible]
実大殿ゝ[illegible]
私そゝ[illegible]
のゝ[illegible]

仏乃ゝ[illegible]
実大君乃御
秋蕙乃ゝ
まゝ[illegible]と秋蕙乃御[illegible]
実蕙乃家入乃ゝ[illegible]
ゝ文いとゝ[illegible]
秋女三文
ゝ[illegible]
実女三文乃ゝ[illegible]
御移ぞだ
女三乃念補堂
ゝ[illegible]
実西ゝて女二宮乃ゝ[illegible]
内ゝ[illegible]
実蕙乃女二宮とゝ[illegible]
行ゝ[illegible]
君東よ女二文里亭（渡御のゝ[illegible]

[illegible]

秘女三宮（乃勅宣）　実　義

[illegible]

義女三宮　仍朱雀院乃御遺勅ヲ以ト　ヒ　ヒ　ヒ

あいらるくて
実とのの
いとあさましきかな
秋中宮の御
人しれぬとのつゝみきこえ
あはせあてゝ
ものしくこゝろふかさよ
実大君の御を見れば
心ゆるべ
かゝせもしこゝ
秋大宮の御
実中宮の
ものあはれなるこゝろやとゝ
中宮の心大宮のかゝせ給へる
御ものゝこゝろやうなくとゝ中宮と大宮との御
うちとけてやうなくと

秋中君の我身白うあるようちとけて侍の心やとすれば
もゝこゝ侍
実大君の薫のようちとけてこゝろ
ゝへて中君の心ゝ高ねるとゝ我身
ものなきこゝろのよつけてこゝろ
実薫の中宮心をこゝろ
恨とはかゝへしこゝ中宮の薫の心
めのとしてはしいさせ給
秋若ゝとめのとの出こゝ
私小宮ワツラハシノ心カケ給ヒ一
（キ申ミモアラザレバニノカラズ
たゝやうなるこゝ
手結をこゝ
ものなしてこゝ
実薫の子よりきとさて
心のいそきなるこゝ

世乃品々をしなべて
[illegible]
秘 左心たらうしと
秘 いとのしるくい大意
美 大意乃世しなべてのやうに
[illegible]
秘 六君乃御服よとハ品さほとに
美 世二宮をしいつもやく
乃ちいそしれぬと
秘 ノ義あやまり
あまりをびき意乃品ゐるあれ
美 ゐしたほす意乃品心をきやもなき心をて弟子の
評ヘ又ハ次も一度意のるとと評ヘ
くめしく祈ちけてまひしるす
花 ハ物ハ[illegible]乃意のるとと
秘
美 ハ[illegible]
秘 悪皆弟子乃紐御門も御浄しこゐ[illegible]
美 まもいるもとと意乃事とあ[illegible]
まとしきろ乃御心ときて

美 意乃根拠とと上の浄しに[illegible]
[illegible]実こしき方そつくかをんとをいう
[illegible]乃評ヘ
かくおさるきりと
美 若ゐとをやくみをゐるとと海心をとおゐ
[illegible]
秘 世二文[illegible]
おし乃人乃御[illegible]
美 意乃[illegible]の若ゐようく[illegible]
秘 意乃[illegible]
[illegible]白いとい[illegible]
[illegible]
河古 [illegible]
[illegible]意[illegible]
秘 [illegible]
美 季[illegible]王相ト云二月寅ノ次第勘ヒ

卯月つゝしの花せちゑ
付節分四月節也
花四月の節よりねさ花よ三条実よりつゝしの四月の卯月節よりね
美女二条三条実文（略）
花ゆゑ
あるじ乃日花つかよう（略）
せちゑ
秘花香西文とゝ
美女二条薫乃里亭こ条実後御所日於飛香舎花宴
花乃花の宴あり付海ゆ延元二年乃例とゝ乃す
ゆ天暦三年乃例あり
いつゝ天暦三年琴乃備と参て延元御筆ゝ
れをけ祐ゆゝ
河飛香藤花宴事
延元二年二月廿日御記曰廿日左大臣於飛香舎花下
有献物ゆ左大臣献献物稱菅根献御贄可為作
御息所宣旨別當也而後列坐花下盃酒数巡後
左大臣珠作右大将令献題目飛香舎花和哥則
左大臣置御硯連奉手跡連覧献横笛和琴其横笛
箱是兼和尚年物耳酒盃同挙群臣酩酊罷絃哥舞
乱吕敦固親王備前介忠房令吹笛褒賞給禄群臣有差
花西宮記曰天暦三年四月十二日於飛香舎有花宴以
殿上御倚子立南廂有毯代南廂東一二三間巻簾垂母
屋前立四尺屏風二帖敷信乃廣莚中安毯代立小倚
子南簀子敷同莚同簀子中間以東安畳ゆ卿座
當庇中戸南立五尺障子其西在御酒具赤漆大炉
一口有黒漆臺同机二前其上在満心瓶令咋金銅杓
件鳥入御酒銀御銚子一口加土器臺盤炭取當ゆ卿
南前庭安紫端畳四枚其南安二枚殿上人座作掃
部寮令安軒廊東小庭畳二行西面北上樂所座未刻
御出ゆ右大臣次諸卿系上次侍臣着座四位小六位五位南
供御膳具註維時朝臣率五位六位自南庭渡西早置物

小机二基立御座西椽木作在木蘭地綺麥物卧俎小御折
麥四枚立御机上浅香折麥侃裏以金用之柄葉色唐羅
花文綾麥物在心葉藤花用俎小件俎折麥一各四加
牙象臺表紫檀裏蘓芳在銀筋供膳折麥二枚以椽木作之〈葉俎小塗之〉供之
御著四種生物干物窪坏以銀作土器以黄土塗之供之
陪膳退下給臣下衝重供御酒銀盞雑時朝臣供之伊尹取銚子給臣下
義方朝臣給二献餓飢給臣下大臣奏図台示所別當中納言
源朝臣令召示人別當仲蔵人召之示所示入奏調子有哥
事立文臺ヲ南庭立置物御机置御硯紙給臣下献題雑時大臣
奏准延長例地下人一両献哥台庭燎月光明也献哥伊尹取
文臺右兵衛佐清正諭之左女将朝成蔵人以惟信朝臣東
燭地下献哥者源循友兼家灌木有時〻方小〻海哥
大臣取御製召公卿侍臣堪哥者奏絲竹大臣納言渡西
大臣取御杖源朝臣取御琴譜進示奏云延喜示時示琴
譜云源朝臣小稱物名授以義人置示机琴ヲ出袋彈御兼家
被聴昇殿大臣失拜賜禄納言女裝束源氏小袴袴四位白細長大臣給御衣一

襲又小女裝給之
南ノ方ヒトツノミヤヒアケテイツクシウ
花天暦三年詔ヨミウラ
ヨウ
ヨウ
ヨウ

夜中納言左兵衛督

美 舞の息

秘 舞黒大臣の息左兵衛督 但 秘第七第九

秘 左兵衛督より舞の息右兵衛督 但 秘第七第九

三文

秘 白文 弄 第

しらとりの

美 同御弟也 私更衣

南の殿の夜は花のかをりとよ夜上の御ぶいしらう

花 天暦三年 南庭夜花下賜近臣座 美

こうらうてんのうしんしゃくのくらうて

花 天暦三年 軒廊東設楽屏座 美

私 山刻うらうてんといへる不審夜つかたその家のれは

後源氏 ゐ玉ゐ 新 古本 ゐ 新 うらうてんしゃ

いへるをうらうてんとあやまれるなるへし 丁 ゐ

宮の御うらうてんとうたうとも留なといとさたなへい

美 女二文也 秘

かくとりしめ

久曽谷也

御あそうつ

美 ゐ ゐ

うつの地をきりすす

二六条院の御てつつきすす

しきんのふ二ゐ文 文 文 文 琴の譜

秘 入道文 文 文 三文 文 文 文 久曽谷

美 蓋の家せゐ文 文 文 久曽谷 例 花宮

ゐ 延 私御門勤子内親王 ゐ 第 譜 文 九

条の右丞相よつ ゐ ゐ ゐ と丞相の息女女子中

文 号 夜壺 ゐ ゐ ゐ ゐ て村上の天皇 ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ

河琴作譜五巻 雑琴譜百九巻 見在書目六

美 ゐ ゐ の地と木の校よつ ゐ の大部の地と一三巻校ゐ

つけてゐりと別よ奏す ゐ ゐ

花天暦三年右大臣棒先皇賜勅子内親王箏譜三巻左
衛門督執赤笛一管元貞保親王笛也 左兵衛督将螺箏一面
元貞親王物有奇音 奏名献之 今案天暦三年夜壺女御安子ハ
九条右丞相ノ御女也 延喜御門ノ御女勅子内親王ハ
行ハせ給ふる箏譜とゝ
六条院ノ女三宮ハ琴ノ譜
せ給ひ 御ハ琴ノ譜
朱雀院ノ御ハ
笛ハ
花柏木ノ赤つ巻の笛也
秘柏木ノ笛也 美
知てさせ給ふ
今上ノ御てあそせ給ふ
大将ノ御ハ
朱雀院 女三宮

美 笛ノ作ハ人ノ笛とも
作りかよつきなり
美 郢曲ハ人ハ
笛ハ人ハ
花天暦三年沉香折敷四枚紫檀臺以土器様銀器供
御香粉熟 有赤漆火炉銀銚子
寛治五年万寿元年天盃用瑠璃御盃
河内村濃打敷
河銀様楊器 或茶器 親行説
花万寿寛治ノ例
秘名美抄云金翅鳥卵殻鬼神得之出責与人或名絆
瑠璃釈名曰絆含也青而含赤色也

無漏聞御まつり
無漏聞ハ鬚黒ノ息
天暦例如此
かくもかくもしていじんまつり
花久寿ノかくもの卿ノ上首まて毎度盃とりあめ
りてけしかハ仮沢をうりて天盃をたるよう
久寿ノ盃をもつてめと蓋酔歌あるべし
御ものもしいかくもの
天氣し蓋ハとやあつ
とノ盃をハつ
花賜天盃例
天暦七年十月廿八日菊合或尽親王重明賜天盃
寛弘四年四月廿七日蜜宴中暫尽具平親王賜天坏
永延二年三月廿五日栢改六十賀栢改小堂殿給天盃
永祚元年二月十六日朝覲行幸御堂殿給天盃

秘天盃と毎度上首花ノ久寿親王ノ中ハかくしけるよう

寛弘三年三月四日行幸御堂殿給天盃
同五年十二月廿九日後一条院御百日小堂殿小盃 以上給机改 是例也
今案此日万寿元年宇治殿長保三年京極殿賜
上皇御盃寛弘三年光明峯寺栢政永徳元年
室町殿行幸鹿苑院大相國小給之也為仕之次第
とかくの沉沓て案一向しらぬ
ものとかの河西ノ沉沓
ものとかくもの
孔子ノ格言
仮永延二年三月廿五日小右記云栢改六十賀
左大臣起座献御盃右大臣取御銚子主上給御盃於栢
改之間被作寺言或者云万寿栢改又五答奏可弱
北栢改下座中納言
しかハ沉ものとかの
河進食日本紀才七案
秘不分明
幸注
不知
何河ノ沉恐也不知

[illegible]

花 天盃とあり、時に主殿とやらんの盃の酒とうつし入れ
のむ物とそのうつけをさして
てはるうの階ちうるる
して座よりつうれ[illegible]

秘 盃の数習とうつして天盃
[illegible]

美 天盃とはるいうつけをうつしてみるとき
問云て盃をいとよのまうすうつしてのむとてのまるや
一勅とうつけよ波習とうつしてのむうれとと
[illegible]
問云天盃とはる何を作るれ
一勅時の時云れ心
[illegible]

[illegible]

漢書曰女子公主注曰如淳曰公羊傳曰天子嫁女於諸侯
必使諸侯同姓者主之故謂之公主百官表列侯聚食
日國皇后主帝姉妹曰長公主
正三位源朝臣潔姫者淀城天皇之女也天皇選算未
得其人太政大臣正位藤原朝臣良房初奉之特天皇恍其吋採 採九
超倫殊初嫁之

[illegible]

秘 位次るまはは

美 雅ともの 江梅のもとに [illegible]
あぢきなう人納言いうれしそうふるそうと
私ふるに年 江梅のもとに [illegible]
秘 雅ともの ともに江梅の大臣るうしとあり [illegible]
右大臣とうけ[illegible]
さよくうけうや
美 江梅るうし

私 江梅の系 [illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]母御とそ　手又大臣の家よりかつぎ物する[illegible]
私友豊母御女二文母よ　梅察大納言の心とけしるを見[illegible]家
[illegible]
美　[illegible]世二文の母とけしと
私　紅梅大臣乃年歳を母女小子[illegible]とけしるを[illegible]
人[illegible]けよりきこえとるれと
美　宿世[illegible]人[illegible]とを[illegible]
[illegible]
時乃みと
[illegible]上御在位乃帝とよ
[illegible]ます殿[illegible]　私　豊乃ゆ二文[illegible]
主上乃御方をきこえとを殿[illegible]
[illegible]
美　友乃[illegible]乃帝
[illegible]
美　梅察乃宰をいつ

何宴

[illegible]
天暦三年四月十二日記　地下人一女献[illegible]庭燎[illegible]
献平とあり
美　天暦三作文あり者待年[illegible]
[illegible]
私　菓子地
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
美　上[illegible]
大[illegible]
友花[illegible]
[illegible]

蕉

そてのきりのそこしよかるとあの花をよろねはよ袖をけてくり

秘 をよろねはこ三をといてり

美 ゝ千蕉乃心をよろねはこ廿三をのまよりかるあつをの

市女うしたりあり

美 主上乃御為ろしいをよろねはよ袖をけてたをれるさ

ろりとり 下乃宗世二をの乃御市

けをろ〳〵ほそにくもや

秘 我物ろ〳〵ほと

美 菓子地し理運よ我物よりをほを評する

今上市製 ろ乃世をけてよほゝ花をれいをあるねをそれ

河 雅香舎 花宴 延長市千

影 くてををくほ乃代をけてよかゝる花をろ乃花

美 主上乃御派し

秘 市製やも東方ゝ蔵をゝ乃をれもまをゝあるさほを

美 花ゝ花もあるねろとや

大夢千九 をあかるをしほ乃をよかるねを花乃をきう

河 拾

花 拾遺集延長乃宗対花つか乃花の花をゝ紅をるを

殿上乃をのをををつをうまつをほう花ゝ花原國拳

花の花ゝをうちゝ業をををうまをほ

秘 河千花乃花ゝをうちゝしゝ夕暮の千をるゝ

美 派をゝ作をるゝ 乃宗 乃をを

美 夕暮乃千ゝ をきゝゝをゝをきゝ

桜察大納言の千といて千千のゝを

美 よろつゝの名をゝ千雲ねをて雲乃市と品ほにをゝ

美 れやけをゝをゝ桜察大納言の千

ねをて言のをほとをある蕉乃市と品ほにをゝ

美 をゝ乃用よをの乃ちよかりをますれちをきをく桜察

蕉をゝをゝのをゝしをあゝ志元又花原の花ゝ西是

しゝをにをゝ美をゝ千をといをすを字をゝやけをほつ

くかゝをきをもをゝをゝ乃をゝ地

ををちをしむゝすをれをてゝ市ゝ志乃

秘 和梅をゝ 私紅梅をゝ市ゝ志乃

弄

寺ノ内 紅梅よ似ゝ ゝ 仙石人 私 弄

紅梅いろいろ多のもきるあまる所よりあり山物案物

なりの大友の西七郎まいらせて

美久雪の息 系図に 童にありて泊よりやうに木り今

上の女二文殿の宴し

人七郎 美とあり

私系図に男子八人めなりし

なりうり母これしあり

出て 美出衣をあり心

あり(きちりうりてそうをあり心

上ぐちめみこちちまいう(すり 親王ちまい勅祿あり

殿上人ぐくの人くまい文のなりはるうり

殿上人樂一所の気まい女二文ちうくを拍るうれし皆乾

くあふと心 私 女ノ内るい女二文し

文まりてさせしてまつり拍きり

美そのよさうりうりの日殿宴ありて遠還御その者の

の衣女二文三条文(渡御や殿ノ文の内ら美好

うへノ女房さかう

禁中祝いの女房大概ほとうよ条ら

じさうノ御車まて

美庇御車よ女二文の宴拍し 弄

いさうなき糸げ

庇御車 糸毛

こがねつくりむつ 金造 檳榔毛 細代

美ありろよ金のるる物ら 私車のくるまのるる物といて

出むりへノいくり車 保元 美

美蓋ちりの出逸や

女ふノ人くのまて 出車や

秘蓋ちりノ出むりへし

ゝやちくうちらけてうて

女二文と蓋ノ里まりまて ゝやちくうちのふし海

ノやりよあてよ

女ふノ出逸をいてちいさまうへうてけうまへとき

見にしるしのうらのいそ
実大夫のもと　山せ二文まて
山せまてこぐくにこうつよ
秘蓋のあまりるる
仏のかりてうそ
実仏ありて三四六通とえて我身のおせも大夫三の宿孫
をしあきらめるきと
てうのいはきいよのこと
実宮治のうを
つうをあのよことだう
面に阿蘭梨のうのうしとおよあう
思いのうち木のりと
河弁居のあ三山うしのうちれのうの
実えつうのよ寺のこ流て又宮治文
秘あよ弁の弁よあり秘あ思いるうち木のりとやうきと宮をき
実見に八文の四秘や

そうこうこ海よかいすほう
八文の御面のうこや
せくうまのとくしきこ海よあうね
実宮弁のかりうう木あいうる
あまもきあうま男
常陸外つうよ下人ていうる
反いまつ入紙ひて
蓋に弁居のたくこ入ようる
このこのとさして
山車と八文のいうこ木ほ
ぐくとてをせうしうしいて
河しうまもきこ
蓋の角しあこ
こうちりうこうる
実右中こ点よまもうこほ紙
いうちのせこどの
実常陸前司あ常陸外
任こうこほ

かいやきにして
花かいのようにして
秘領納しまひ
美薫のうきみをと
小ろてよろんと
秘こるこつ
美薫ことろよかつすほと人
をきたあるう又薫といあつまへ
御とろ人と
美つかほの供の人
馬ともいふけるこつ
馬とり避る
ふかん
美あるこく作事
美山新造いつ作
つそのるれば

秘新造
私は衣ノ鳥ハ衣ノ色のすると

きねのをうしのする
秘下ろそのねよろるるへ
あそしねよろきう
かそうそもしねよろ
とうしろ

かすほへそれを
美かする
あそのへよまろあと
美山車とほ
山へよ薫のかすをう
ろうといも
容へあれとろよう
ろきへのあるまつかて
ほよりそうしるへ
ほんのほのかとる

美濃部とい浮舟の乃れい保地をお駄よ所てのなて
そのともあ人くよ新てい山車ゆりさ泥へ乃り保女唐
い極神乃やすしと
秘ゆもよあ保人い京乃しる
又乃とるいる人いまいとろりて
先しの里そしい保人へ

そやうとしてう
なとるいる保人乃いと
あやーくあいる
京を保浮舟乃車のうちまていた
思いの保と
れしなを乃しい保人へのて
いたこのあいるくきうとをつて
あいなて人へのうとも乃へ人へ乃という受るて
くてふを心をやりてといた

てましけよかうを
浮舟い牧人へ乃うへきうと用意乃あと
かうやうあてるるりとい山車地受出しもへ
秘大夫よ似ら
もうちつれて
薫乃へし
車いふくかて而いうらるとと
花先ようて女乃車よりのる時いうち板とて地と
車乃方板とうへとようふ地
秘女車い車のおいうう折板といふ地を安てかるる
へおよい山月先なるへ
いとくうけよやこて
仏良見くくみる
美匡乃あると浮舟乃車ようまてふさ
うちうちきいるてこと
美浮舟乃衣裳へこれい紅

しつ屋へいろのこうちき
河若苗色
花うしてあをのすこしそこ[illegible]る色の文乃きぬの色
うしろ[illegible]ぶかみのうらゐる
美四人の屏風るしいうちとうち蕙のこうしゃ
あるさ面よもきてぞ
浮舟乃歌や
ほしとくるけよそうこうる
秘人乃いしゃ
いつ川乃舟子うちも
河泉川 木津川とも人日本記の桃ノ川と中にて桃源郷と云
崇神天皇兵を教しやしゃ
都いてくふ[illegible]の[illegible]川面風さむ長せこ
造舟カナワタシ 文選市二
妻人うしいし川うけ川のうしゃ
美浦次乃歌や

水乃ちくるうう
木津川水乃ちくるき時うちわうや
あづまぢとかいいけこうかそうこう
秘京四乃道とかいい南部乃石をこやをきと美
ふうしてくるしとうす
車うさにつかうつ二人のごぶち
うちをとしてせで
美[illegible]浮舟や
うしるとさしいてふまろうよ秘いちのふ司むすあふ
こいふくしうと
かしけふふりしとしうちゆ
美浮舟乃さ面受領の女をすてつくること
やうくうしてきまて蕙のうちすくうふ和
しうふ人あるうばしゃ
美始よ車うかうゆる人
光人まとよあれとてうの地乃うや

二番めよ車うかりて原かとうびるとあるしく原
天下よいうきとくかりうしとあつまりて面まきもの
天下ニテガとうむしとと私あめりふそと他きん
常陸國まて御司の任分とあいせ蓮物とうよ
いあるとうしとくく
すまねうくすうよかつまし
弁后乃出る原栖みうく衣裳のうつきとけせと
乃乃むる蓮乃うこ乃九乃
物けく面い原　秘物けけ面ける第
お礼をたうせて
くく物すくとまてれと原面と起す
ちききのくとゆしく　付退
おしくるれい蓮乃立のきのくとゆしくなてのくと
うれうう面さふきはの
蓮乃ちくれるくとあつく原ちうしと乃とま
くちきくうれいとあやしくむつきと

おかりけりてい
美かくの乃申ていい蓮乃心とまるまかりと
あまま去て山夏乃原乃くう
蓮乃原くくし御せうそこ乃れとさうくこの社そも行
とちりて只て御休息あるとくくる
去乃去をくくまかけよ
海面を蓮のくくくけ
日清くくくくくくくくと
弁后の推量心
御原くくあつくと
河御后頭
蓮乃ちりしくくくくのあつくと
うちけりくくてもうくくくくくきくう
弁后乃海面去よ對面する
かめつる原くそく　花弁乃后去のくくくくくくくいるくくく
秘およ山あつまくくくくくくく

いとのつるるまで
秋さいやりつる　弄
ぬかりつるかと
白菊の紅し伯洲うつ　ぬるまで
ふる老人いとあやしく
実　山老人とい深草天よつきうしかとるいるとまでと
けさしむごとの心ちあるいて　河無期
尽期とるきい心こうきうもるまでと
いまそかき弁つる
実　深草天の心
うばこるるこりめうしたりいとうくる
秋　弁とつるまで薫のこと紀ふるこもきうる　実
実
ふとしくつくしくしも
秋　大天心　実
おれをみるよつけて
実　深草ゆよ大天の花く当出ふる三　薫の心

白きこの心いうちする
深草のあけるいと
天の門ふるもいとくにうるときうる
秋　中天にし似ふる
実　中天もし山深草天の似ふる
私きこの白と薫の中の神の似ふる
おれうちちかしうんきいの
花うしくうるるこの心ゆうるふる
一一花兄弟るいまして
ふるれてまつさうれと
瓜八天の白子のうちのうるうる似ふうる
まとよこ天の白子よこそ
深草の白八天の白天みとい　平　薫の心
世中うかしけるれとこと
秋　大天よく似ふい世よかし
かうらいまてうるてうんさ　実
実

河
取金釵鈿合各折其半授使者曰為我謝太上皇誼
献是物尋旧好也　長恨歌傳

秘　山のきりの乃字は心あるべし金釵をえて恩分のうちも
なきものと云家おかしかるべし　をかきりとしてよるべし

美　かゝるこゝろを乃　玄宗の心に似たかつらなるべし　そこ
別人なりと完弟えてうく似し　れ乃くさめ不とも蓋の定
人乃とかつほのうりを

美　白玉の蓋乃白いをきしうりてうきのとうりてうち
とけ申なもい以すえて入ぬ不勇之あるべ　人乃と矣
つほとゝあつ西人ともゝきれ乃るるもゝ　いしし
御を乳ときゝあいて

美　蓋乃ゝよぬきゝもしるべ乃きねをてきれるゝ
あるゝ西すて

うき乃乃ゝ西を白は蓋乃ゝ
西てきあいほを
まゝて事料をてほし

かゝきゝしゝあい

美　蓋乃内ゝ浮乃乃を弁よ作をゝるゝ
ゝゝかゝをゝと作ゝ乃ちい
秘　弁の初
こゝゝゝるゝこゝのきゝ紀
ゝ年ハにねてなくゝてるゝと
ゝけるき白ゝゝ

美　大玉乃ゝりゝゝ乃ゝゝあるゝゝと浮乃乃
のゝすゝ
ゝ乃ゝゝかしいのゝゝよゝ
秘　女二玉ハ蓋乃ゝゝゝゝしい　時ゝ乃　東家
ゝにけゝ西けゝしを
大若乃西ゝゝゝれゝゝゝ又ハゝ玉ゝゝゝゝ
乃ゝゝ玉ハゝけるゝゝあゝて
浮乃乃常陸介妻ハ
くゝかゝしゝますゝゝるにゝハ

美 薫乃かつまをすまの海人のたくなわと
ねるかしら原にしよりとしたるあるかきしみてしてく
ちくるつれと
秘 薫乃口くちのくちのくちのく

美花奥

うつふしをるうこうろうこうさいてを

中黄門

私云清水紙云枕草子乙

いりあひしのうさよりのまくるまとしをけいしをとしをとしを故事云為

東方朔傳

薫君之竈由是日衰至年三十而終後数歳賓太主卒与薫君會葬

武帝始館陶公主號賓太主（如淳曰賓太公之女也故曰賓太主）堂邑侯陳午尚之午

孔主寡居年五十餘近幸董偃偃始偃与母以賣珠為事偃年十

三隨母出入主家左右言其姣好主召見曰吾為母養之因留宿中

敬書計相馬御射頗傳記年八十而冠之

美日 茂ゆ ご茂をとりめつけゝる 紫色ゆ